平成
２７年度

浦安の子どもたちの
確かな学力の向上を目指して

全国学力・学習状況調査結果

目次

調査結果概況　P 4

小学6年生
- 国語（知識・活用）　結果と課題・指導改善例　P 6
- 算数（知識・活用）　結果と課題・指導改善例　P12
- 理科　結果と課題・指導改善例　P18

中学3年生
- 国語（知識・活用）　結果と課題・指導改善例　P22
- 数学（知識・活用）　結果と課題・指導改善例　P28
- 理科　結果と課題・指導改善例　P34

質問紙調査結果（児童生徒質問紙、クロス集計、学校質問紙）　P37

目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

結果の取り扱いについて

- 調査結果は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、指導法の改善等に活用する。

調査結果概況

小学6年生

国語A

	浦安市	千葉県	全国	全国差
児童数	1,784	52,319	1,061,264	
正答率	76.5	71.5	70.0	6.5

国語B

	浦安市	千葉県	全国	全国差
児童数	1,784	52,316	1,061,093	
正答率	70.9	64.5	65.4	5.5

算数A

	浦安市	千葉県	全国	全国差
児童数	1,784	52,324	1,061,301	
正答率	79.4	74.7	75.2	4.2

算数B

	浦安市	千葉県	全国	全国差
児童数	1,783	52,309	1,061,063	
正答率	52.3	45.1	45.0	7.3

理科

	浦安市	千葉県	全国	全国差
児童数	1,783	52,337	1,060,792	
正答率	66.7	61.9	60.8	5.9

中学3年生

国語A

	浦安市	千葉県	全国	全国差
生徒数	1,338	48,775	1,016,451	
正答率	79.3	76.0	75.8	3.5

国語B

	浦安市	千葉県	全国	全国差
生徒数	1,336	48,757	1,016,575	
正答率	69.8	65.7	65.8	4.0

数学A

	浦安市	千葉県	全国	全国差
生徒数	1,339	48,766	1,016,737	
正答率	68.2	63.4	64.4	3.8

数学B

	浦安市	千葉県	全国	全国差
生徒数	1,339	48,737	1,016,548	
正答率	46.5	41.6	41.6	4.9

理科

	浦安市	千葉県	全国	全国差
生徒数	1,336	48,763	1,016,572	
正答率	55.2	52.0	53.0	2.2

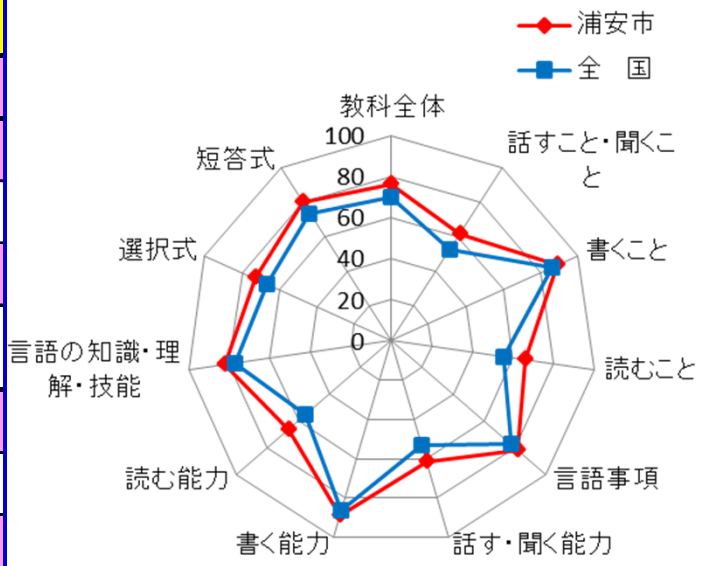
全国平均よりも
5ポイント以上　上回る

A（基礎）B（活用）ともに、全国平均を上回っています。特に小学6年生の国語A（基礎）、国語B（活用）、算数B（活用）、理科は、全国平均を5ポイント以上上回っています。

小学6年生

小学校６年　国語（知識）

		平均正答率		
		浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体		76.5	70.0	6.5
領域等	話すこと・聞くこと	61.7	53.0	8.7
	書くこと	89.0	86.0	3.0
	読むこと	66.0	55.2	10.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.8	77.2	4.6
評価の観点	話す・聞く能力	61.7	53.0	8.7
	書く能力	89.0	86.0	3.0
	読む能力	66.0	55.2	10.8
	言語についての知識・理解・技能	81.8	77.2	4.6
問題形式	選択式	73.2	66.4	6.8
	短答式	79.9	73.7	6.2



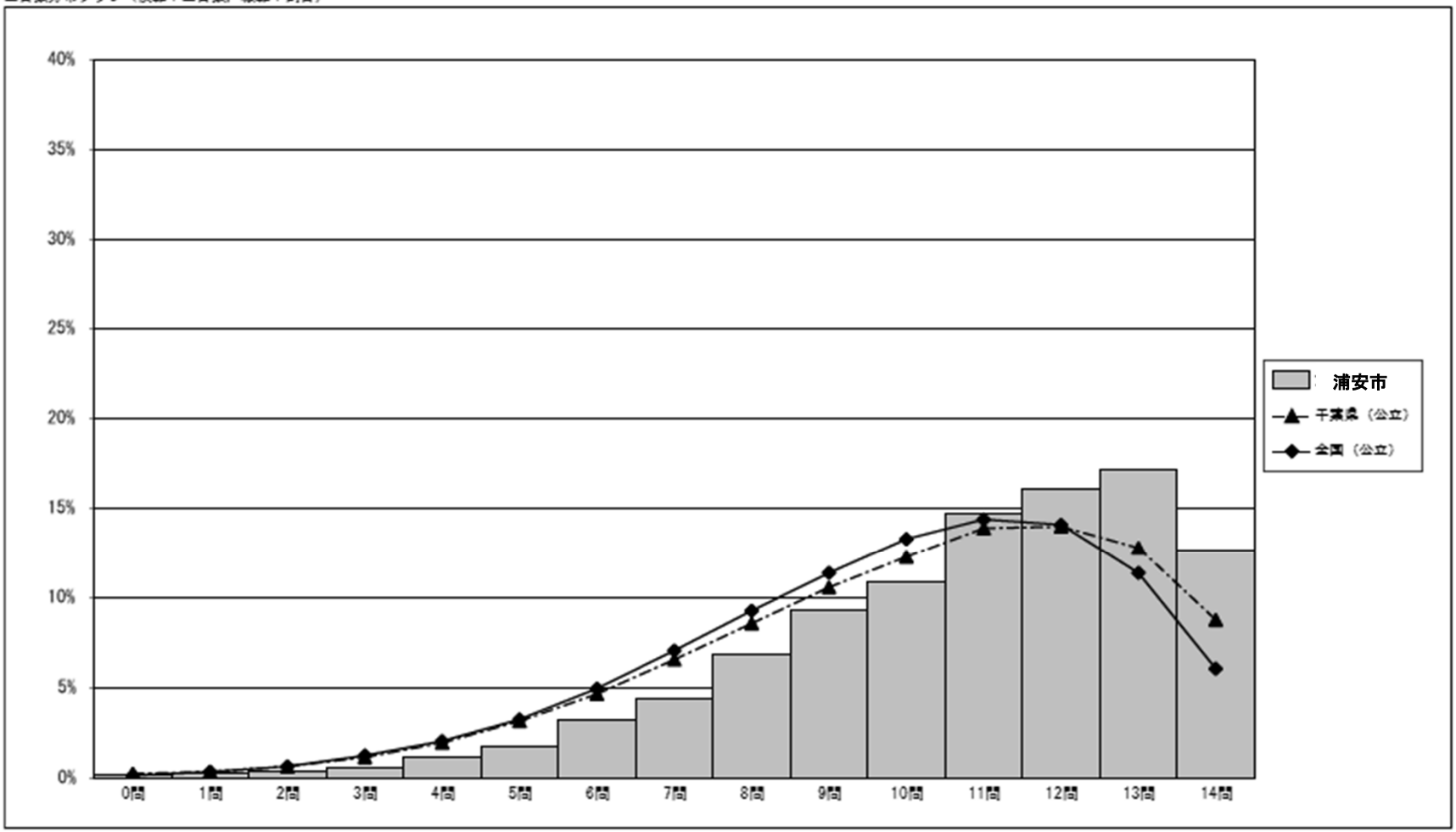
概要

国語A問題（知識）全体の正答率は76.5%となっており、全国値を6.5ポイント上回っています。
また、すべての観点においても、全国値を上回っています。特に「読む能力」は全国値を10ポイント程度上回っています。
しかし、正答率が5割以下の設問があり、文章を読みとることだけでなく、表現の工夫について丁寧に確認していくことが必要です。

小学校６年　国語（知識）

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）

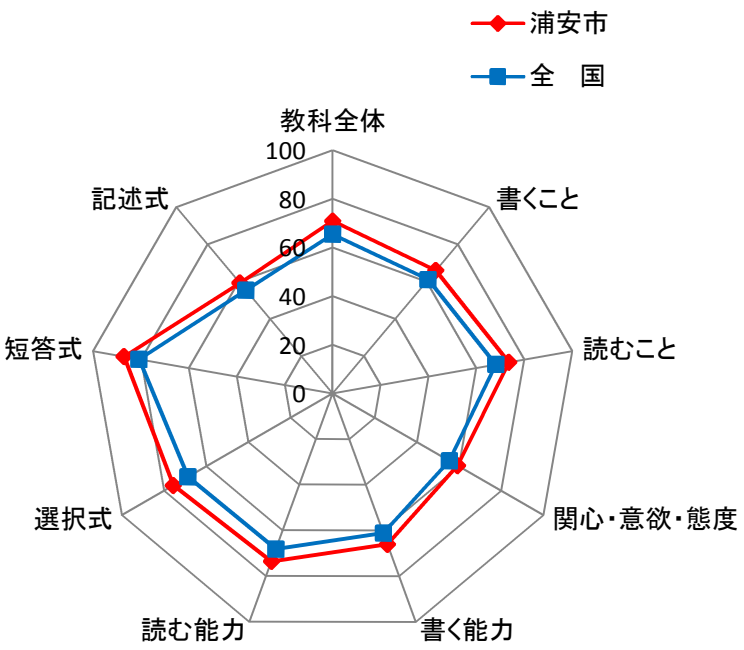


度数分布について

浦安市の国語A問題（知識）の正答数度数分布は、全国・千葉県と比べ、正答数が12問以上（正答率約85%以上）の児童の割合が多いことがわかります。
ただし、正答数が0問～4問（正答率約30%以下）までの児童の割合は、全国や県とほぼ同じ状況です。

小学校６年　国語（活用）

		平均正答率		
		浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体		70.9	65.4	5.5
領域等	書くこと	66.0	61.1	4.9
	読むこと	73.5	68.1	5.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	59.3	55.4	3.9
	書く能力	66.0	61.1	4.9
	読む能力	73.5	68.1	5.4
問題形式	選択式	75.6	68.6	7.0
	短答式	87.1	80.8	6.3
	記述式	59.3	55.4	3.9



概要

国語B問題（活用）全体の正答率は70.9%となっており、全国値を5.5ポイント上回っています。

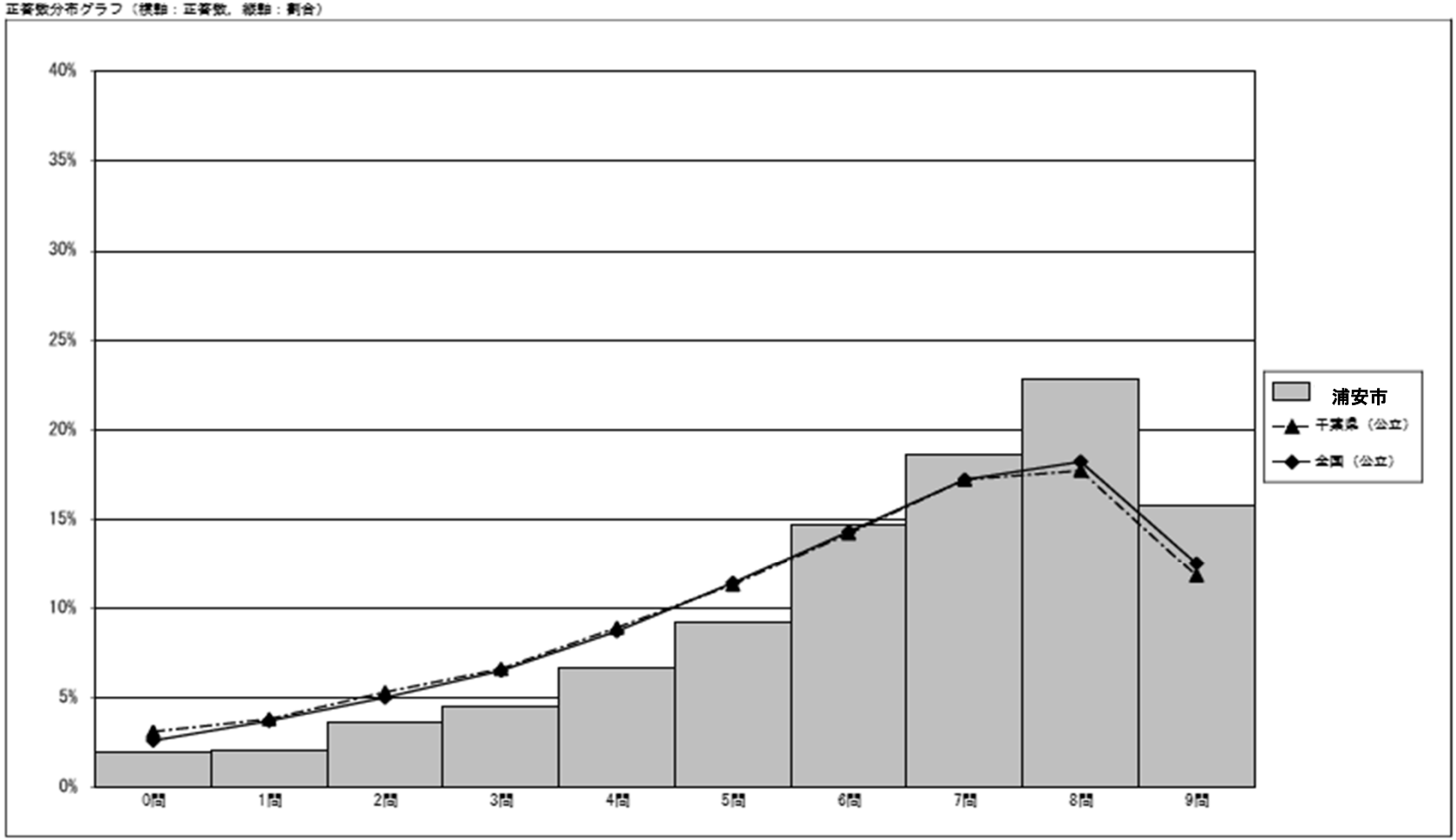
領域・観点別にみると、おおむね全国値を上回っていますが、「国語への関心・意欲・態度」は全国値を3.9ポイント上回っているものの他の観点よりやや低い傾向にあります。児童の実態にあった言語活動を充実させることが必要です。

問題形式を見ると、昨年に引き続き選択式や短答式に比べ記述式の正答率が最も低くなっている点を踏まえ、日ごろの授業において、質問の条件に合致した文章を「書くこと」を意識した指導が必要です。

小学校6年　国語（活用）

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



度数分布について

浦安市の国語B問題（活用）の正答数度数分布は、全国・千葉県と比べ、正答数が7問～9問の児童の割合が多いことがわかります。

ただし、正答数が0問～2問（正答率約20%以下）までの児童の割合は、全国や県と近い状況です。

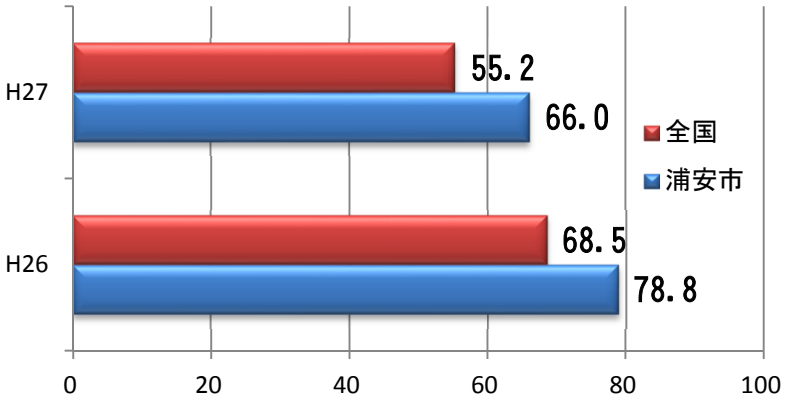
小学6年　国語

＜課題が見られる点＞

表現の工夫を捉える

「読むこと」は昨年に引き続き、他の領域に比べ全国を大きく上回っていますが、正答率が50%に満たない問題がありました。

「読むこと」経年比較



「コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く」正答率（%）	
全国平均	19.8
浦安市平均	40.5

＜指導改善例＞

【日常の取組】

〇引用の方法についての指導

・教科書教材を通して、自分の考えを根拠付けたり、具体的な例を示したりする際に使うことを確認し、意見文を書く。

・新聞記事を取り上げ、感想を書いたり話したりする。

〇指導資料の活用

・「学びの突破口ガイド」（千葉県教育委員会）の活用例）高学年版「引用の仕方を覚えよう！」

・「授業アイディア例」（国立教育政策研究所）の活用例）自分の思いや考えを根拠付けるために引用しよう

【他教科との関連】

〇総合的な学習の時間をはじめとして、他教科での調べ学習で、「引用」についての知識の定着を図る。

【学年や学校全体での取組】

〇学校図書館の活用

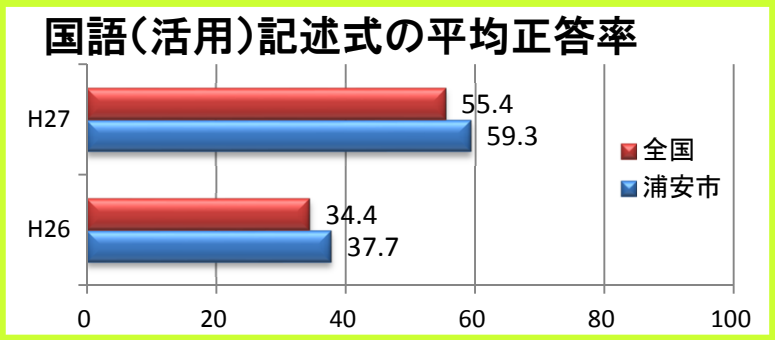
・学年に応じた引用のルールの確認。

小学6年　国語

＜課題が見られる点＞

記述して意見を述べたり答えたりする

国語B（活用）の記述式の平均正答率は、59．3%です。昨年度より21．6ポイント上がっていますが、正答率が50%に満たない設問があります。



記述式設問	正答率（浦安市）
目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く。	37.8
文章と図を関連付けて自分の考えを書く。	49.2

＜指導改善例＞

【日常の取組】

○自分の課題について調べ、内容を整理し意見を記述した文章を書く活動

（書く時のポイント）

①課題設定

読み手に伝えたいことを明確にする。

②構成

伝えたいことを読み手に伝えるために、調べた内容から必要な内容を取捨選択。

はじめ・・現状認識と問題提起

なか・・・解決に向けての提案・事例の提示

おわり・・結論や展望

③文末表現

事実と自分の意見を書き分ける。

○指導資料の活用

・「学びの突破口ガイド」（千葉県教育委員会）の活用

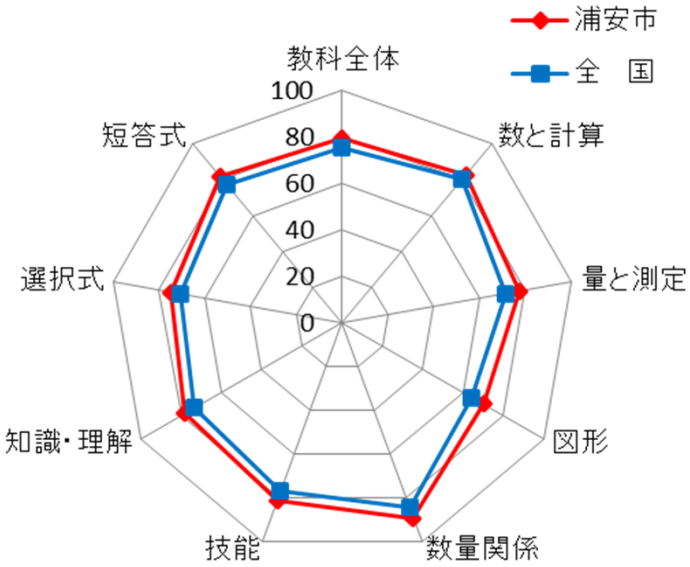
例）高学年版「絵本や物語を読んで、推薦文を書く。」

・「授業アイデア例」（国立教育政策研究所）の活用

例）自分の考えを述べるために必要な図表やグラフを用いて書こう。

小学校６年　算数（知識）

		平均正答率		
		浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体		79.4	75.2	4.2
領域等	数と計算	82.9	80.1	2.8
	量と測定	77.1	71.3	5.8
	図形	70.0	64.5	5.5
	数量関係	89.5	84.9	4.6
評価の観点	数量や図形についての技能	81.3	77.2	4.1
	数量や図形についての知識・理解	78.0	73.6	4.4
問題形式	選択式	74.6	70.5	4.1
	短答式	81.6	77.3	4.3



「円の中心と円周上の２点を頂点とする三角形が二等辺三角形になるふさわしい理由を選ぶ」正答率（%）	
全国平均	５０．６
浦安市平均	５７．６

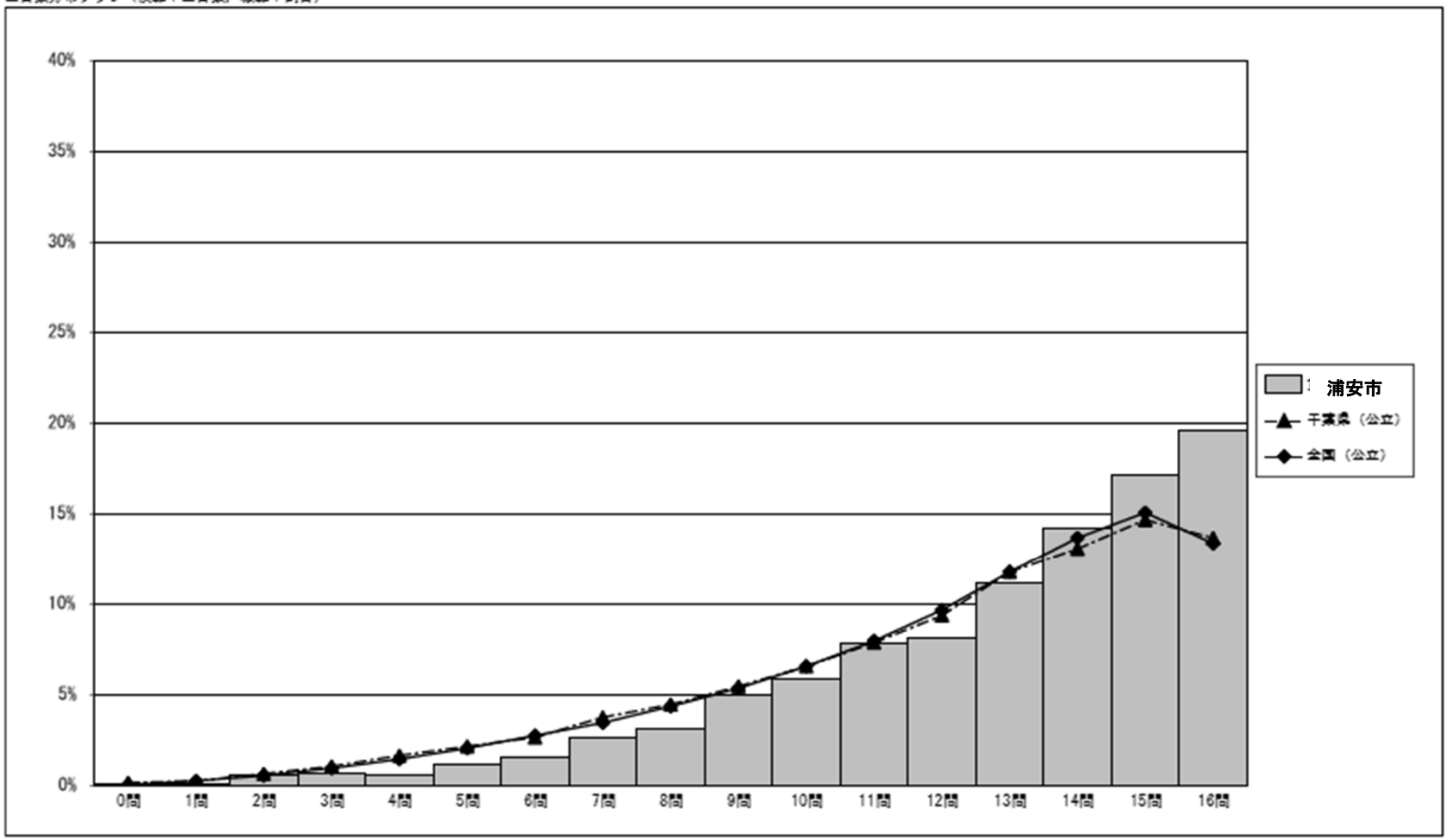
概要

算数A問題（知識）全体の正答率は79.4%となっており、全国値を4.2ポイント上回っています。すべての領域および観点において、全国値を上回っており、中でも「量と測定」と「図形」は5.5ポイント以上上回っています。しかし、「円の中心と円周上の２点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ」設問では、正答率が6割未満となっています。作図の操作と図形の性質を関連付けて理解できるように指導することが大切です。

小学校６年　算数（知識）

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



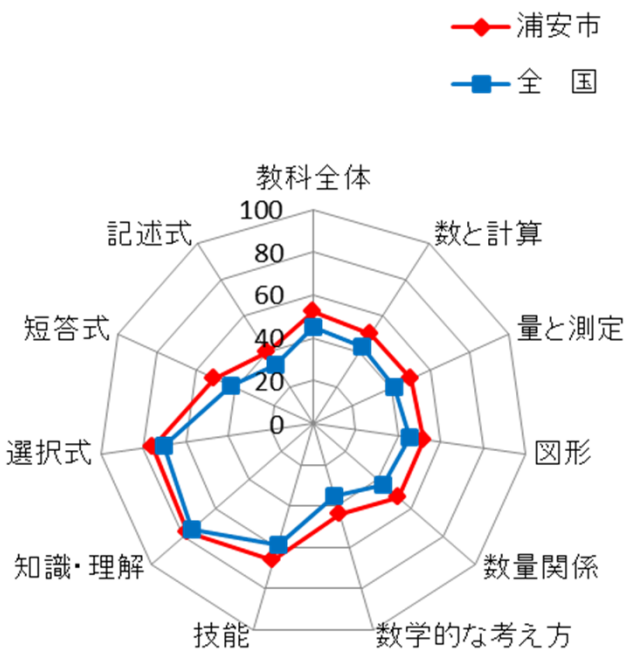
度数分布について

浦安市の算数A問題（知識）の正答数度数分布は、全国・千葉県と比べ、正答数が15～16問（正答率約90%以上）の児童の割合が多いことがわかります。

正答数が0～4問（正答率約25%未満）の児童の割合は、全体の2%です。

小学校6年　算数（活用）

		平均正答率		
		浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体		52.3	45.0	7.3
領域等	数と計算	49.7	42.4	7.3
	量と測定	49.9	41.7	8.2
	図形	51.8	45.6	6.2
	数量関係	52.7	43.0	9.7
評価の観点	数学的な考え方	43.7	35.3	8.4
	数量や図形についての技能	66.1	58.7	7.4
	数量や図形についての知識・理解	77.4	74.9	2.5
問題形式	選択式	75.8	70.6	5.2
	短答式	51.0	42.2	8.8
	記述式	39.5	32.5	7.0



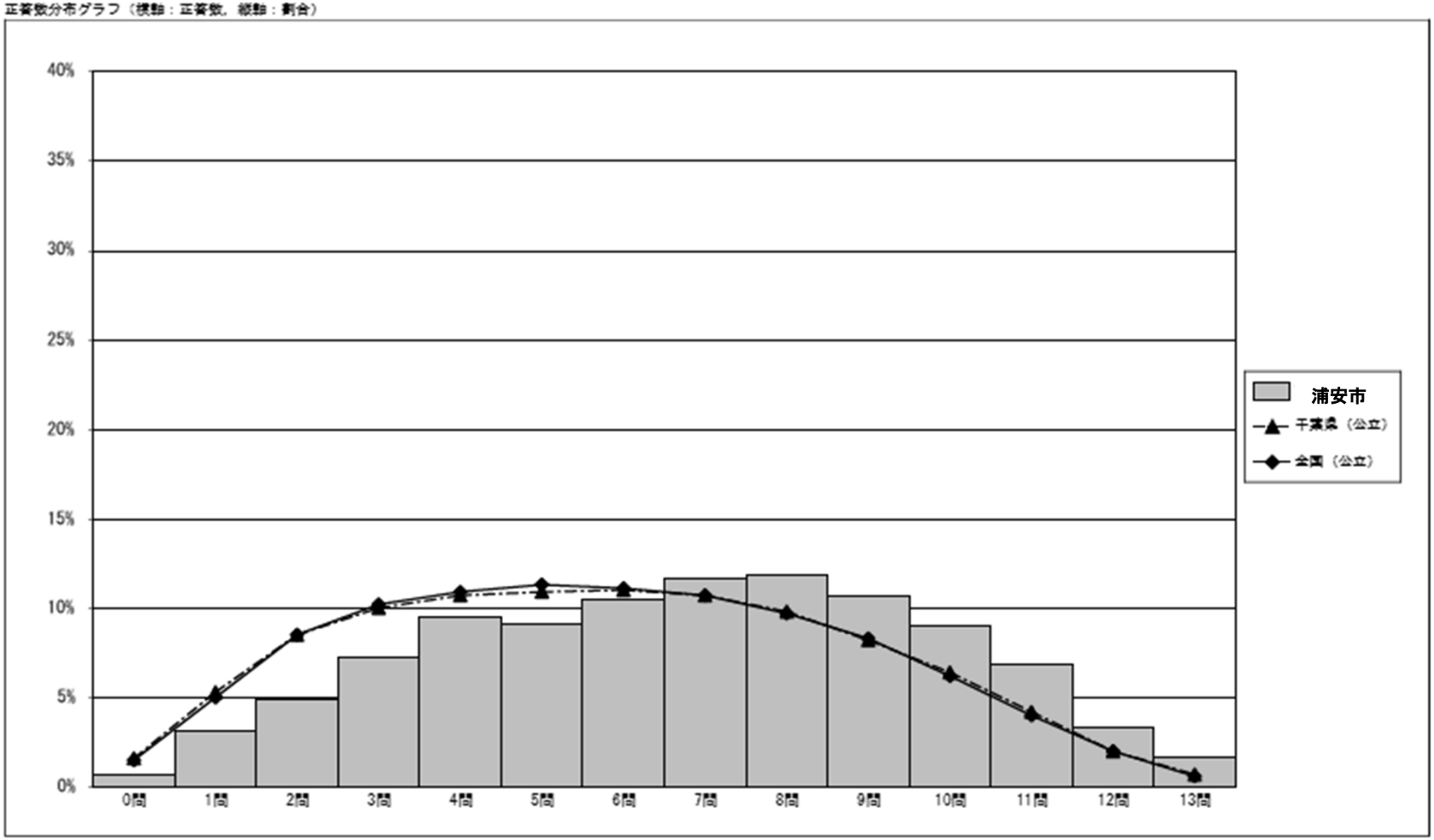
概要

算数B問題（活用）全体の正答率は52.3%となっており、全国値を7.3ポイント上回っています。
すべての領域・観点において全国値を上回っており、特に、領域「量と測定」「数量関係」や観点「数学的な考え方」は全国値を8ポイント以上上回る結果となっています。

小学校６年　算数（活用）

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



度数分布について

浦安市の算数B問題（活用）の正答数度数分布は、全国・千葉県と比べ、正答数が8～13問（正答率約60%以上）の児童の割合が多いことがわかります。
また、正答数が4問～7問（正答率約30～55%）の児童の割合は、全国・千葉県とほぼ同程度です。

小学6年　算数

＜課題が見られる点＞

「活用」の正答率が
50%未満の割合

教科全体の正答率は全国を上回るものの、算数B（活用）の正答率が50%未満である児童の割合は、45%となっています。

特に、「根拠を示して理由を記述すること」に課題があります。

設問	浦安市 正答率（%）
2組の道のりが、それぞれ等しくなる根拠を示す	32.2%
概数を用いて、目標に達するには、12月に3000個集めればよい理由を記述する	28.5%
分割された2つの図形の面積が等しくなる理由を記述する	16.3%

＜指導改善例＞

【日常の取組】

○図形の性質をもとに、根拠となる事柄を過不足なく説明する活動
- 話し手に対し、必要に応じて「言い直し」「つけたし」等を促す。
- 聞き手に対し、筋道の通った説明になっているのかを意識させる。
- 「なぜそういえるのか」「もっとくわしく」など問い返し、話し合う場を設ける。

○ICTの活用（問題把握）

○指導資料の活用
- 「学びの突破口ガイド」（千葉県教育委員会）
- 「授業アイディア例」（国立教育政策研究所）

（例）H27「図形の性質を活用して日常生活の事象の解決する」

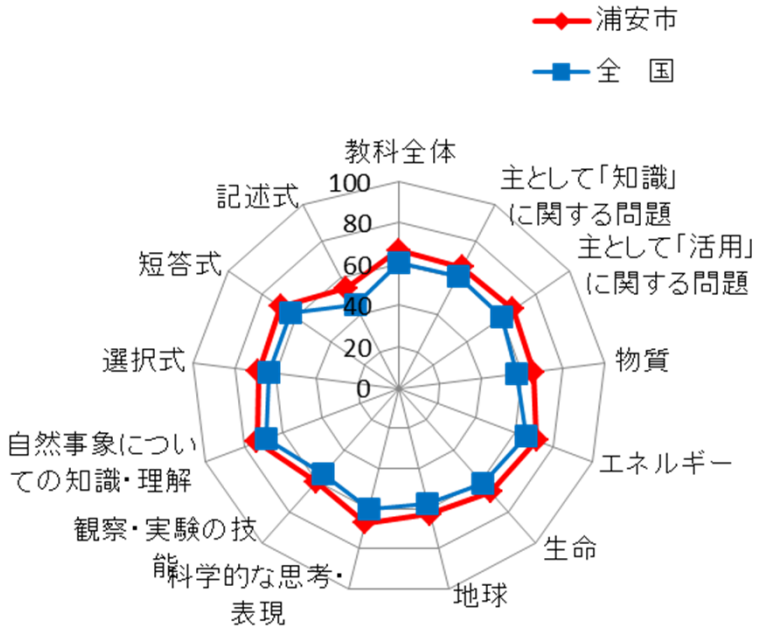
【学年や学校全体での取組】

○日常の事象と、算数を関連付けて考える活動

○学習規範の確立、聞き方・話し方ルール

小学校6年　理科

			平均正答率		
			浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体			66.7	60.8	5.9
枠組み	主として「知識」に関する問題		66.1	61.3	4.8
	主として「活用」に関する問題		67.1	60.5	6.6
区分等	A区分	物質	65.3	57.4	7.9
		エネルギー	71.1	65.6	5.5
	B区分	生命	66.9	61.2	5.7
		地球	62.6	57.8	4.8
評価の観点	科学的な思考・表現		67.1	60.5	6.6
	観察・実験の技能		60.6	55.5	5.1
	自然事象についての知識・理解		73.1	68.6	4.5
問題形式	選択式		68.3	62.9	5.4
	短答式		69.4	63.6	5.8
	記述式		54.4	45.3	9.1



「示された器具（顕微鏡）の名称を書く」無解答率（%）	
全国平均	16．1
浦安市平均	17．1
「水が水蒸気になる現象について、その名称を書く」 無解答率（%）	
全国平均	15．2
浦安市平均	15．8

概要

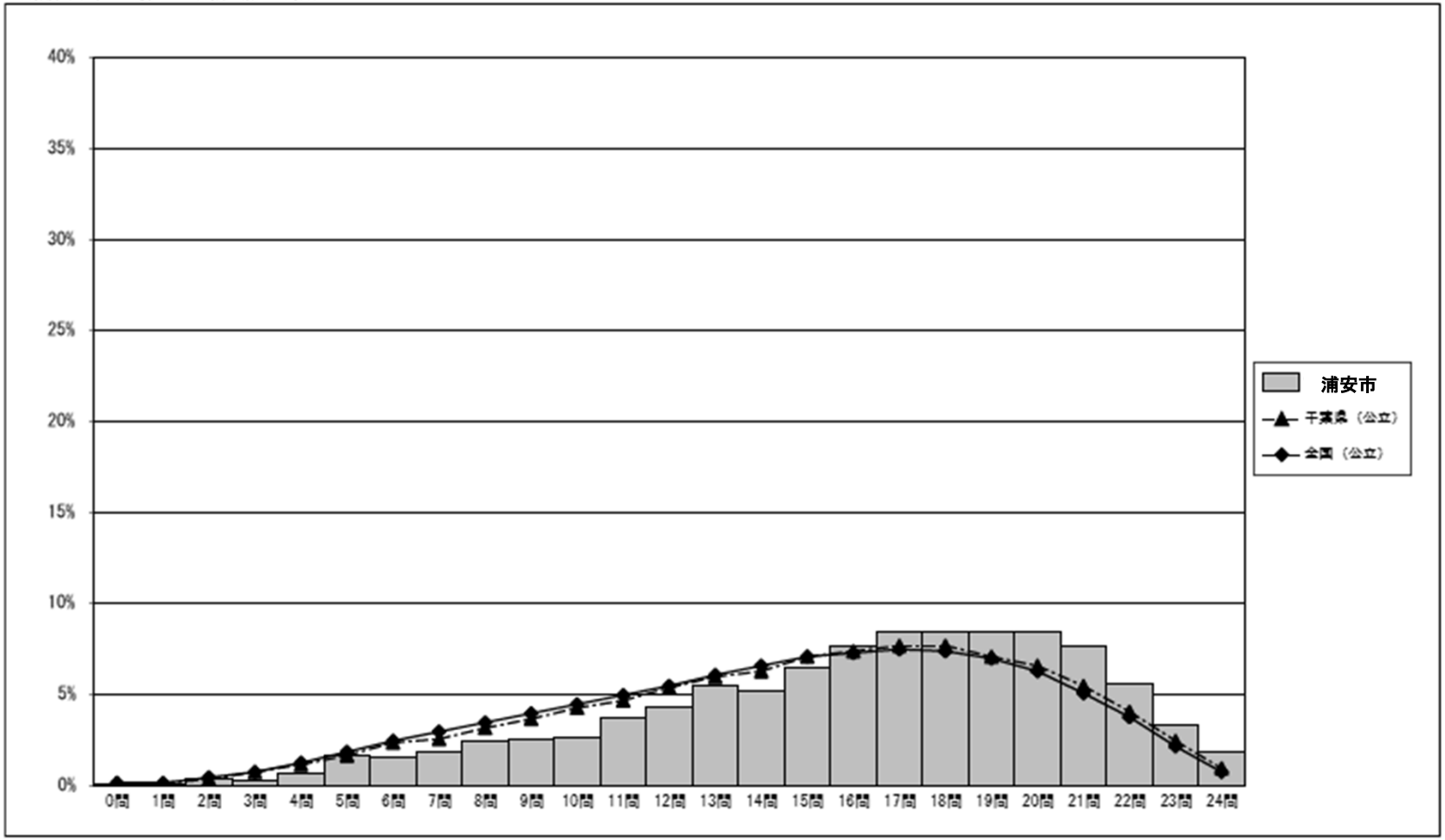
理科全体の正答率は66．7%となっており、全国値を5．9ポイント上回っています。しかし、浦安市も全国同様「観察・実験の技能」と「記述式」の平均正答率が低くなって います。

また、短答式の平均正答率は「69．4%」となっていますが、無解答率が全国の値より高くなっている設問がありました。

小学校６年　理科

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



度数分布について

浦安市の理科の正答数度数分布は、全国・千葉県と比べ正答数が17問～24問の児童の割合が多いことがわかります。全国の平均正答数が「14．6」であることを考えると浦安市の正答数が高いことがわかります。ただ し、正答数5問以下の児童の割合は、全国・千葉県と同程度となっています。

小学6年　理科

＜課題が見られる点＞

「器具の名称を答える」
「現象の名称を答える」の無解答率

「示された器具（顕微鏡）の名称を書く」、「水が水蒸気になる現象について、その名称を書く」の無解答率は、全国より高くなっています。

「示された器具（顕微鏡）の名称を書く」無解答率（%）	
全国平均	16．1
浦安市平均	17．1

「水が水蒸気になる現象について、その名称を書く」 無解答率（%）	
全国平均	15．2
浦安市平均	15．8

＜指導改善例＞

【日常の取組】

〇確認の徹底

①その時間の実験で使用する器具については、しっかりと確認する。

②板書の中で、実験器具名や手順を書く。

〇ICTの活用（操作方法の確認等）

〇指導資料の活用

・「学びの突破口ガイド」（千葉県教育委員会）の活用

例）小学校中（高）学年版「実験・観察上達シリーズ」

・「授業アイディア例」（国立教育政策研究所）の活用

例）対象や目的に応じて観察器具を適切に操作することができる。

【学年や学校全体での取組】

〇ノート指導

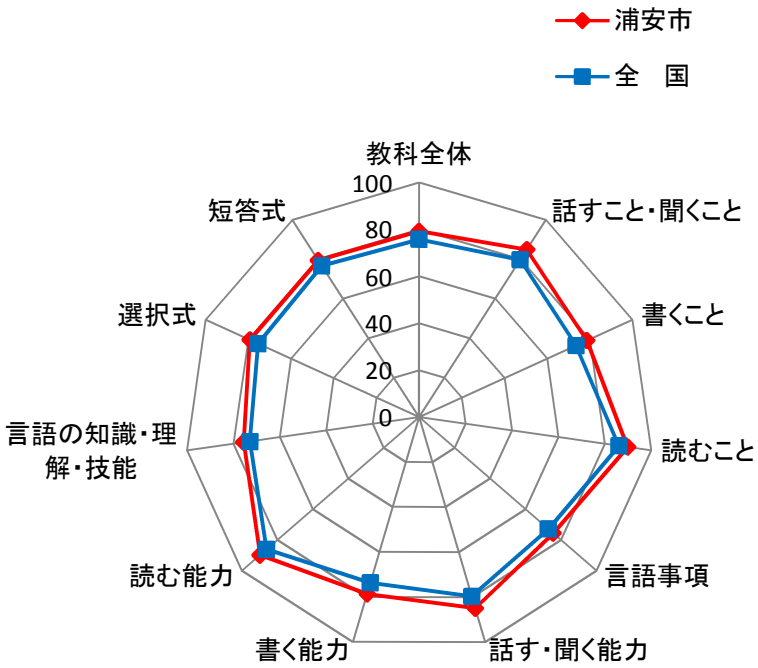
・黒板を写しただけではなく、学習の足跡がわかり、自分にとって見やすく振り返りやすいものにする。

〇学習規範の確立

中学3年生

中学校３年　国語（知識）

		平均正答率		
		浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体		79.3	75.8	3.5
領域等	話すこと・聞くこと	84.9	79.7	5.2
	書くこと	78.6	73.6	5.0
	読むこと	89.8	86.1	3.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.6	72.9	2.7
評価の観点	話す・聞く能力	84.9	79.7	5.2
	書く能力	78.6	73.6	5.0
	読む能力	89.8	86.1	3.7
	言語についての知識・理解・技能	75.6	72.9	2.7
問題形式	選択式	79.3	75.5	3.8
	短答式	79.5	76.7	2.8



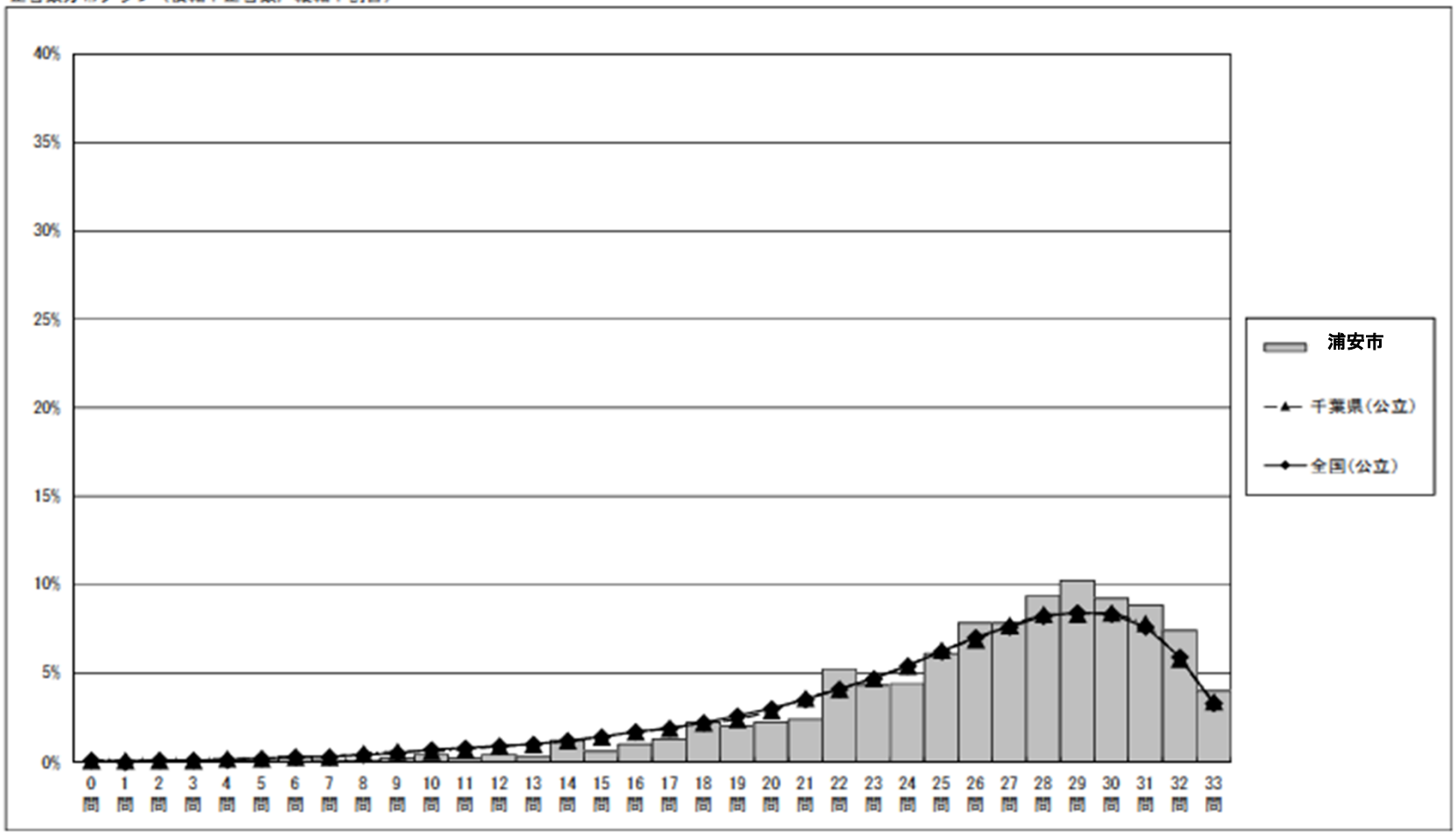
概要

国語A問題（知識）全体の正答率は79.3%となっており、全国値を3.5ポイント上回っています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、全国値を5ポイント以上上回りました。「言語についての知識・理解・技能」については、全国値を2.7ポイント上回り、昨年と、同程度です。今後も、漢字の読み書きや語句の意味について、実際に使いながら身に付けていくことが必要です。

中学校３年　国語（知識）

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



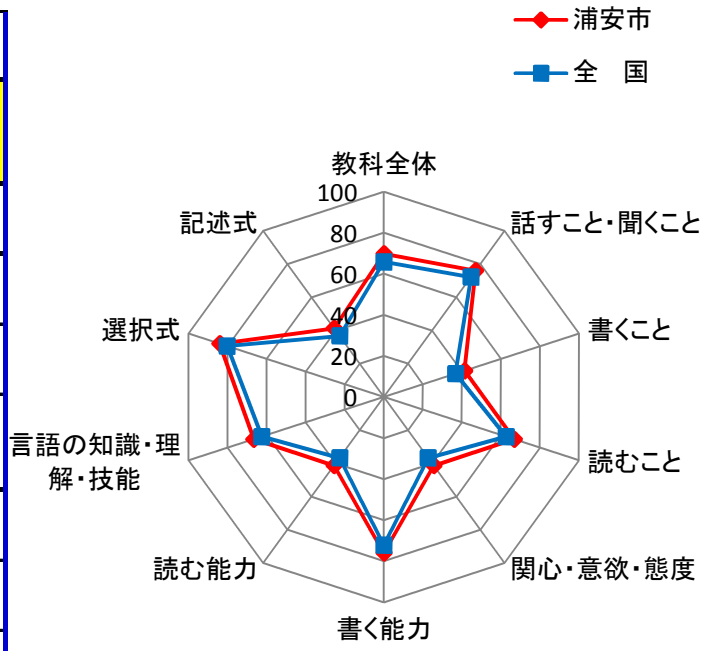
度数分布について

浦安市の国語A問題（知識）の正答率度数分布は全国・千葉県と比べ、正答数が28問～33問（正答率約85%以上）の生徒の割合が多いことがわかります。

ただし、正答数が0問～18問（正答率約55%以下）までの生徒の割合は、全国や県とほぼ同じ状況です。

中学校３年　国語（活用）

		平均正答率		
		浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体		69.8	65.8	4.0
領域等	話すこと・聞くこと	76.0	72.2	3.8
	書くこと	41.3	36.7	4.6
	読むこと	66.7	62.6	4.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	41.3	36.7	4.6
	話す・聞く能力	76.0	72.2	3.8
	書く能力	41.3	36.7	4.6
	読む能力	66.7	62.6	4.1
問題形式	選択式	84.1	80.3	3.8
	記述式	41.3	36.7	4.6



「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く」正答率	
全国平均	23．0
浦安市平均	24．6

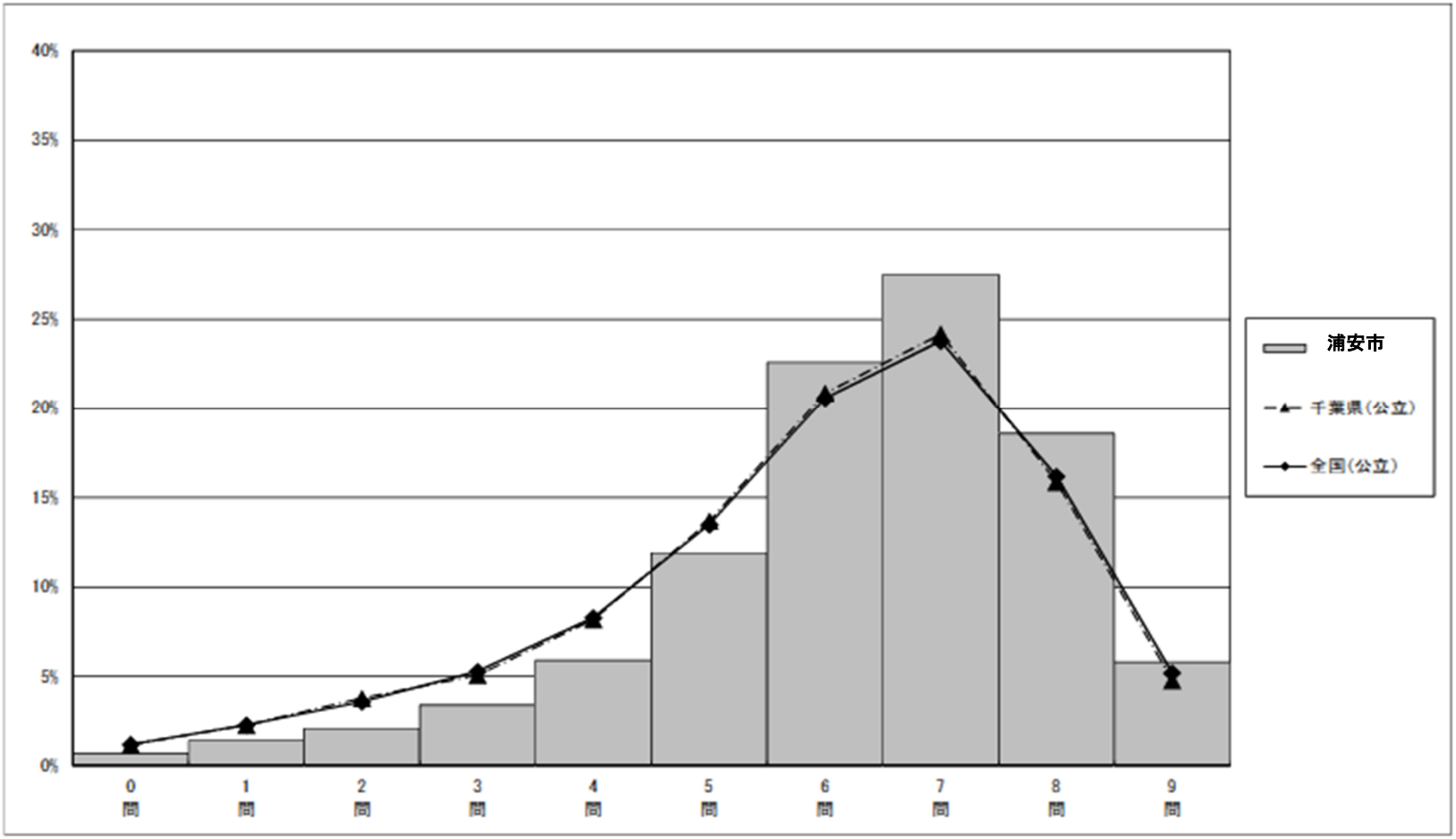
概要

浦安市の国語B問題（活用）の正答率は69.8%となっており、全国値を4.0ポイント上回っています。
領域別にみると、「書くこと」が全国と同様に5割以下となっています。また、「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く」 設問においては、正解答率が24.6%です。引き続き複数の情報を正確に理解し、伝えたい事実や事柄を適切に表現する力を高めていくことが大切です。

中学校３年　国語（活用）

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



度数分布について

浦安市の国語B問題（活用）の正答数度数分布は、全国・千葉県と比べ、正答数が6問～9問（正答率約65%以上）の生徒の割合が多いことがわかります。ただし、全国より割合は少ないですが、正答数が0問～3問（正答率約30%以下）までの生徒も分布している状況です。

中学3年　国語

＜課題が見られる点＞

言語についての知識・理解

教科全体や観点別の正答率は全国を上回るものの、「言語についての知識・理解」では、**正答率が全国を下回る**問題や、**無解答率が1割を上回る**問題がありました。

「文脈に即して漢字を正しく書く」正答率　（%）		
	全国	浦安
秒速5メートル	88.5	88.0
地図の縮尺	72.1	71.7
余ったお金	70.9	69.4

秒・速（第3学年）　縮・尺（第6学年）　余（第5学年）

「漢字を書く」無解答率（%）	
問題	「あまった（余った）」お金を貯金する
全国平均	15.9
浦安市平均	15.5

＜指導改善例＞

【日常の取組】

〇漢字を文や文章の中で使い慣れる

・漢字の音の歴史、熟字訓、読み方などを辞書で確認し、自分の文章に積極的に生かす。

・漢字学習を授業の中に位置づける。

〇読書活動の充実

・本を読むことを通して、漢字や語句の使われ方を知る。

〇練習として

・「ちばのやる気学習ガイド」（千葉県教育委員会）の活用

例）国語1、2改訂版「ちばっこ配当漢字」

・「授業アイディア例」（国立教育政策研究所）の活用

例）言葉を集め、言葉カレンダーを作る（平成26年度）

【学年や学校全体での取組】

〇学校独自の漢字コンテスト

〇漢字の習熟度や学習の仕方について、小中連携の際に確認する

中学3年　国語

＜課題が見られる点＞

情報をもとに自分の考えを具体的に書いたり、根拠を明確にして自分の考えを書く。

国語B（活用）の記述式の平均正答率は41．3%となっており、**4割に満たない設問があります。**

「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く」

	全国平均	浦安市平均
正答率（%）	23.0	24.6
無解答率（%）	3.7	3.0

「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」

	全国平均	浦安市平均
正答率（%）	31.1	37.4
無解答率（%）	11.2	9.2

＜指導改善例＞

【日常の取組】

〇教科書教材「文章名人」の活用

・目標に沿った学習活動の充実。

・構成や表現方法についての確認。

〇交流の場の設定

・観点を決め、書いた文章を読み合い交流することで内容を確認し推敲したり、より目標に沿った文章にしたりする。

〇練習として

・「ちばのやるき学習ガイド」（千葉県教育委員会）の活用　例）国語1改訂版「書くこと」

・「授業アイディア例」（国立教育政策研究所）の活用　例）社会の中にある情報を自分と結び付けて考える

【他教科との関連】

〇学校図書館を活用した調べ学習

国語で培った情報活用能力を活かし、図書資料から必要な情報を得て、自分の考えを述べる。

【学年や学校全体での取組】

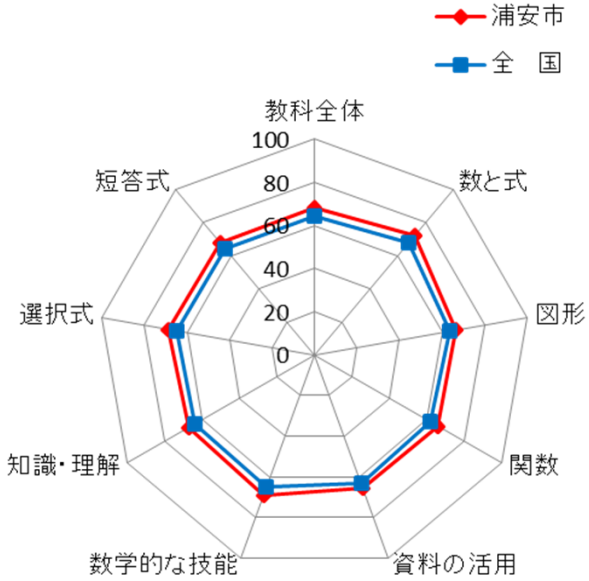
〇書いた文章を生かす場の設定（相手意識をもたせる。）

例）中学校での活動や様子を小学生に伝える。

新聞への投稿。

中学校３年　数学（知識）

		平均正答率		
		浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体		68.2	64.4	3.8
領域等	数と式	72.2	67.7	4.5
	図形	66.7	63.4	3.3
	関数	65.7	61.7	4.0
	資料の活用	65.6	63.0	2.6
評価の観点	数学的な技能	69.4	65.0	4.4
	数量や図形についての知識・理解	67.1	63.9	3.2
問題形式	選択式	68.6	64.6	4.0
	短答式	67.7	64.2	3.5



「12－2×（－6）を計算する」正答率（%）	
全国平均	83．7
浦安市平均	83．3

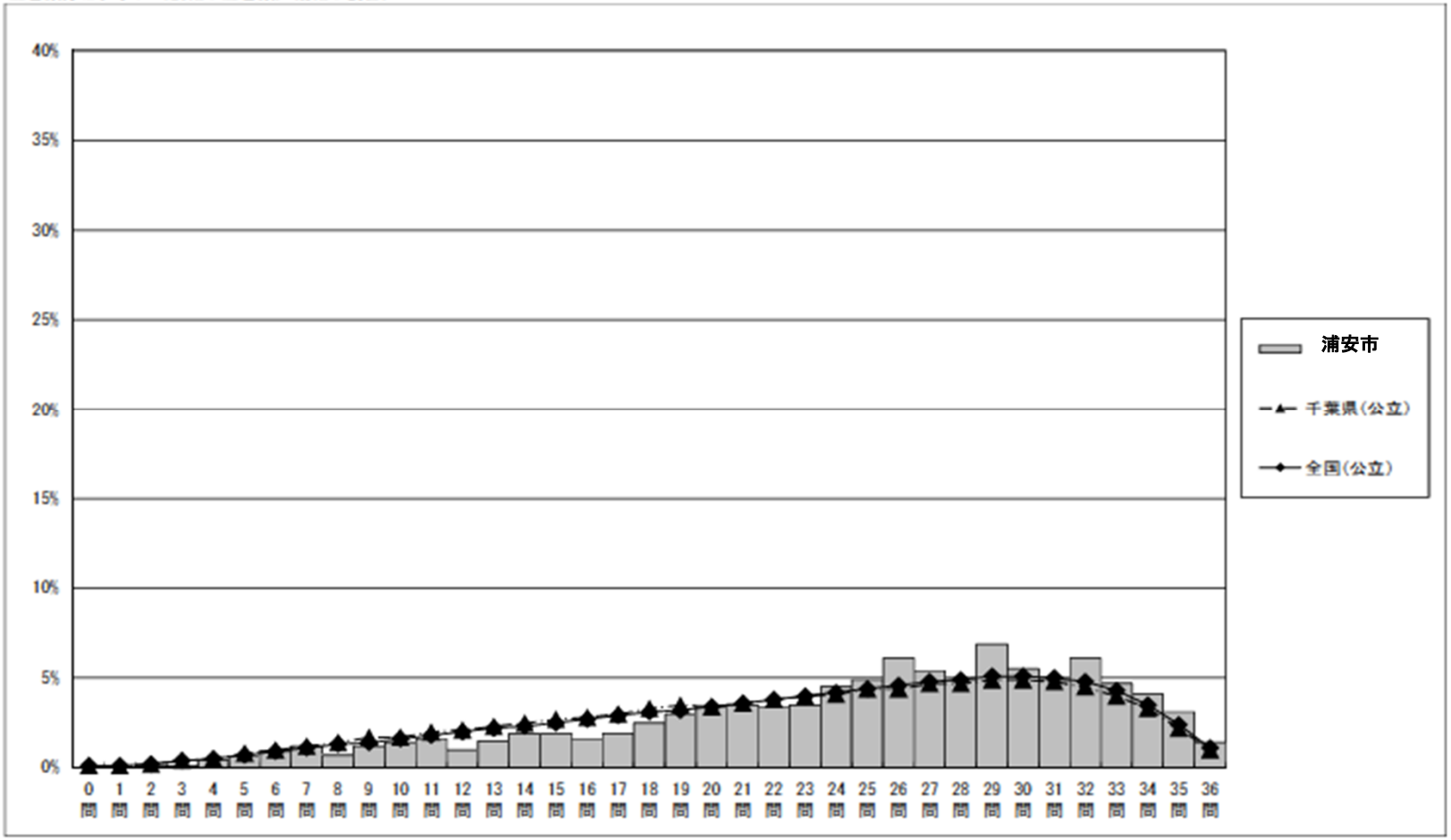
概要

浦安市の数学A問題（知識）全体の正答率は68.2%となっており、全国値を3.8ポイント上回っています。また、すべての領域・観点において全国値を上回っています。ただし、「数と式」領域の「加減乗除を含む正の数と負の数の計算のきまりにしたがって計算すること」が全国平均を下回っていることなどから、これらの領域での、よりきめ細かな指導が必要です。

中学校３年　数学（知識）

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



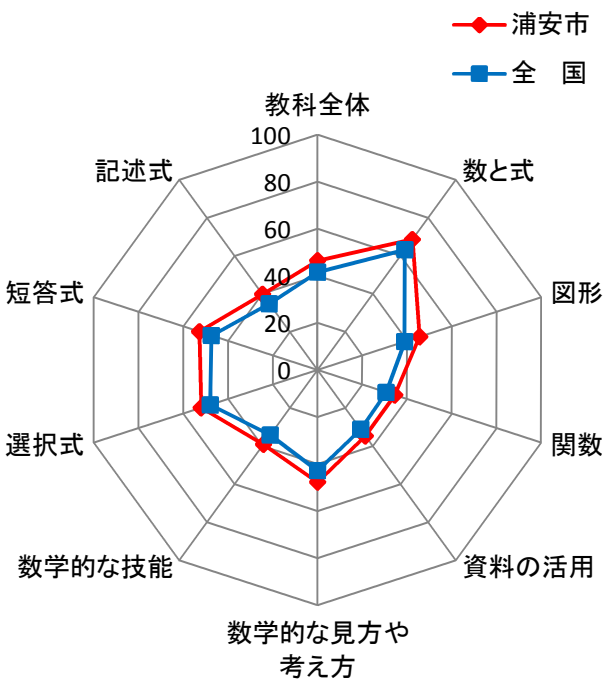
度数分布について

浦安市の数学A問題（知識）の正答数度数分布は、全国・千葉県と比べ、正答数が29～36問（正答率約80%以上）の生徒の割合が多いことがわかります。

ただし、0～11問（正答率約30%以下）の生徒の割合は、全国や県とほぼ同じ状況です。

中学校３年　数学（活用）

		平均正答率		
		浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体		46.5	41.6	4.9
領域等	数と式	68.6	63.2	5.4
	図形	45.6	39.0	6.6
	関数	34.5	30.7	3.8
	資料の活用	34.6	31.2	3.4
評価の観点	数学的な見方や考え方	47.7	42.8	4.9
	数学的な技能	39.1	34.2	4.9
問題形式	選択式	52.0	47.9	4.1
	短答式	52.8	47.4	5.4
	記述式	39.8	34.8	5.0



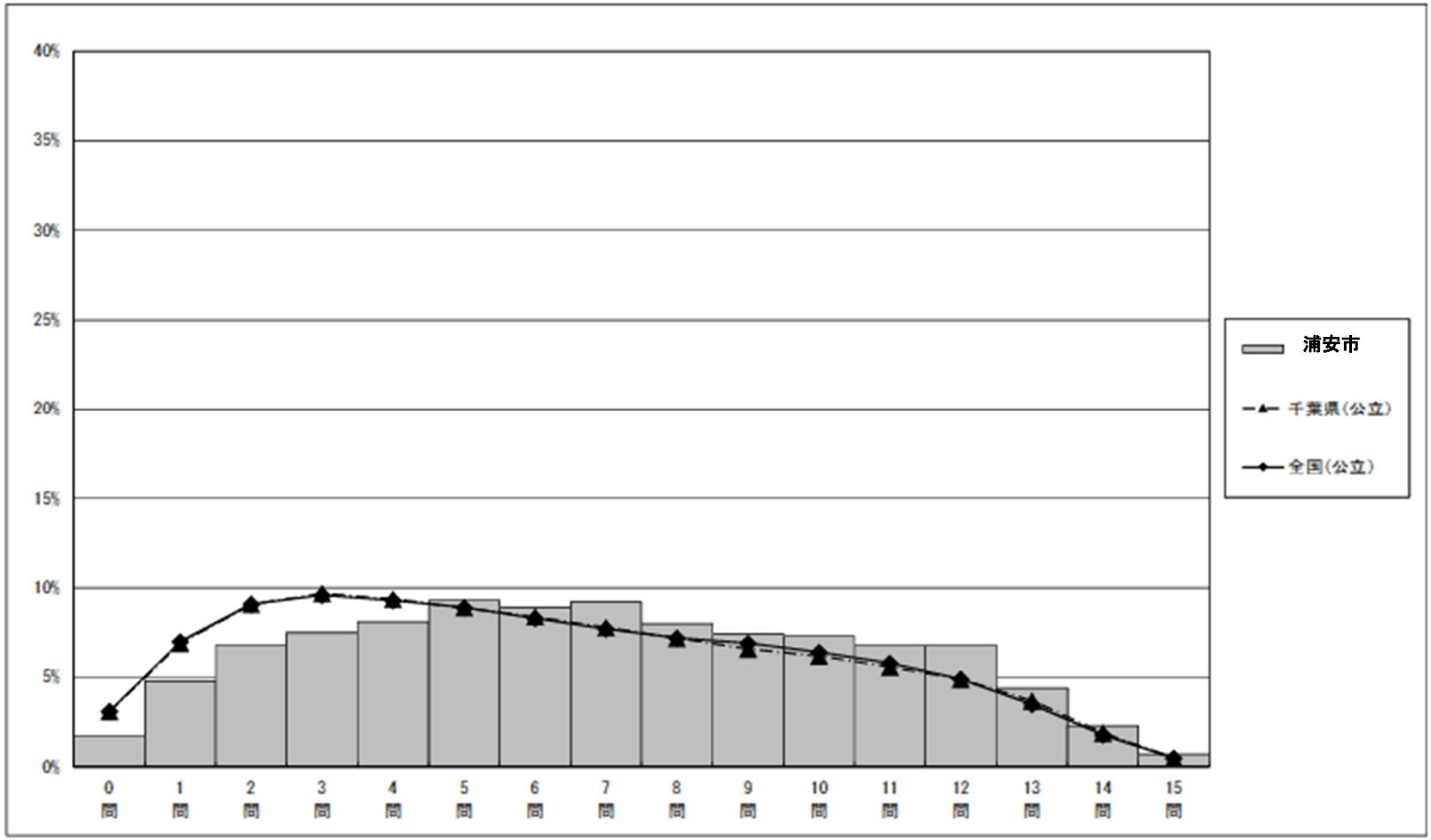
概要

浦安市の数学B問題（活用）全体の正答率は46.5%となっており、全国値を4.9ポイント上回っています。また、領域「図形」では、全国値を6.6ポイント上回る結果となっています。
問題形式が「短答式」である場合の正答率が、全国値を5.4ポイント上回っています。

中学校３年　数学（活用）

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



度数分布について

数学B問題（活用）の正答数度数分布は、分布の幅が広くなっています。全国・千葉県と比べ、正答数が12～15問（正答率約80%以上）の生徒の割合が多いものの、正答数が6問以下（正答率約40%未満）の生徒が、約47%います。

中学3年　数学

＜課題が見られる点＞

資料の活用

数学A（知識）において「資料の活用」領域における正答率が、昨年度に引き続き**他の領域に比べて低く**なっています。

（問題例）「中央値の求め方」　正答率42.6%

14　次の記録は，ある中学校の生徒15人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を，回数の少ない方から順に並べたものです。これを下の度数分布表に整理します。

記録

回数（回）
37
38
39
42
44
49
50
52
53
53
57
58
58
58
62

度数分布表

階級（回）（以上　未満）	度数（人）
37 ～ 41	
41 ～ 45	
45 ～ 49	
49 ～ 53	
53 ～ 57	
57 ～ 61	ア
61 ～ 65	
合計	15

（誤答類型）
・平均値　・階級値
・中央値を含む階級　など

次の（1），（2）の各問いに答えなさい。

（1）反復横とびの記録の中央値を求めなさい。

＜指導改善例＞

【日常の取組】

○正確な（数学の）用語の理解と、用語を用いて説明する活動
- ・様々な資料について、どの代表値を用いればよいかを考察する。
- ・階級の異なるﾋｽﾄｸﾞﾗﾑを作成し、そこから読み取れる傾向を考察する。

○不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する活動

○指導資料の活用
- ・「ちばのやる気」学習ガイド（千葉県教育委員会）
- ・「授業アイディア例」（国立教育政策研究所）

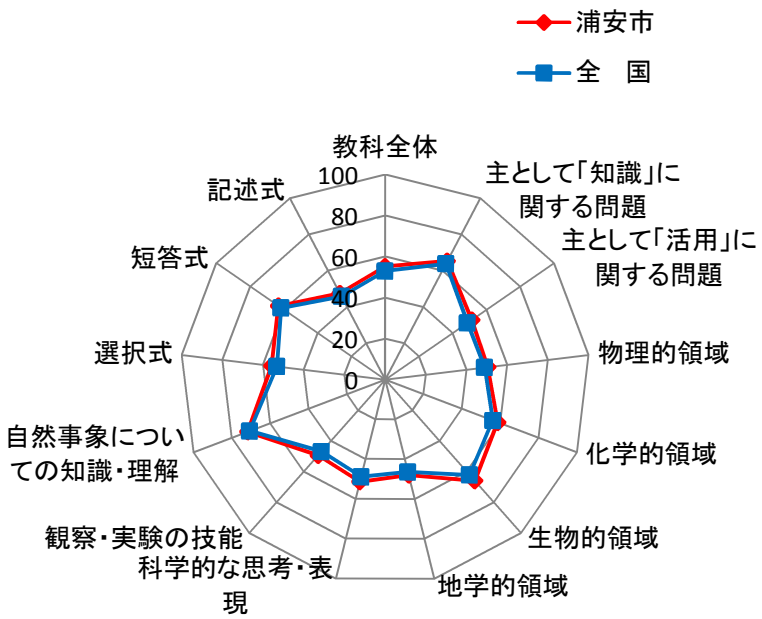
（例）H25「目的に応じて資料の整理の仕方を工夫して傾向を捉え直す」

【他教科との関連】

○国語科・社会科・理科などで
- ・論説や報道の情報を比較して読む。
- ・資料を適切に収集・選択・吟味して、資料に基づいて考察する。
- ・観察や実験結果を比較したり、関連付けたりして結論を出す。

中学校3年　理科

			平均正答率（%）		
			浦安市（%）	全　国（%）	差（ポイント）
教　科　全　体			55.2	53.0	2.2
枠組み	主として「知識」に関する問題		65.3	63.8	1.5
	主として「活用」に関する問題		51.3	48.8	2.5
区分等	第1分野	物理的領域	50.4	48.9	1.5
		化学的領域	58.7	56.2	2.5
	第2分野	生物的領域	65.9	62.2	3.7
		地学的領域	47.9	46.4	1.5
評価の観点	科学的な思考・表現		51.3	48.8	2.5
	観察・実験の技能		49.3	46.8	2.5
	自然事象についての知識・理解		71.7	70.6	1.1
問題形式	選択式		55.7	53.1	2.6
	短答式		63.2	61.6	1.6
	記述式		47.5	45.8	1.7



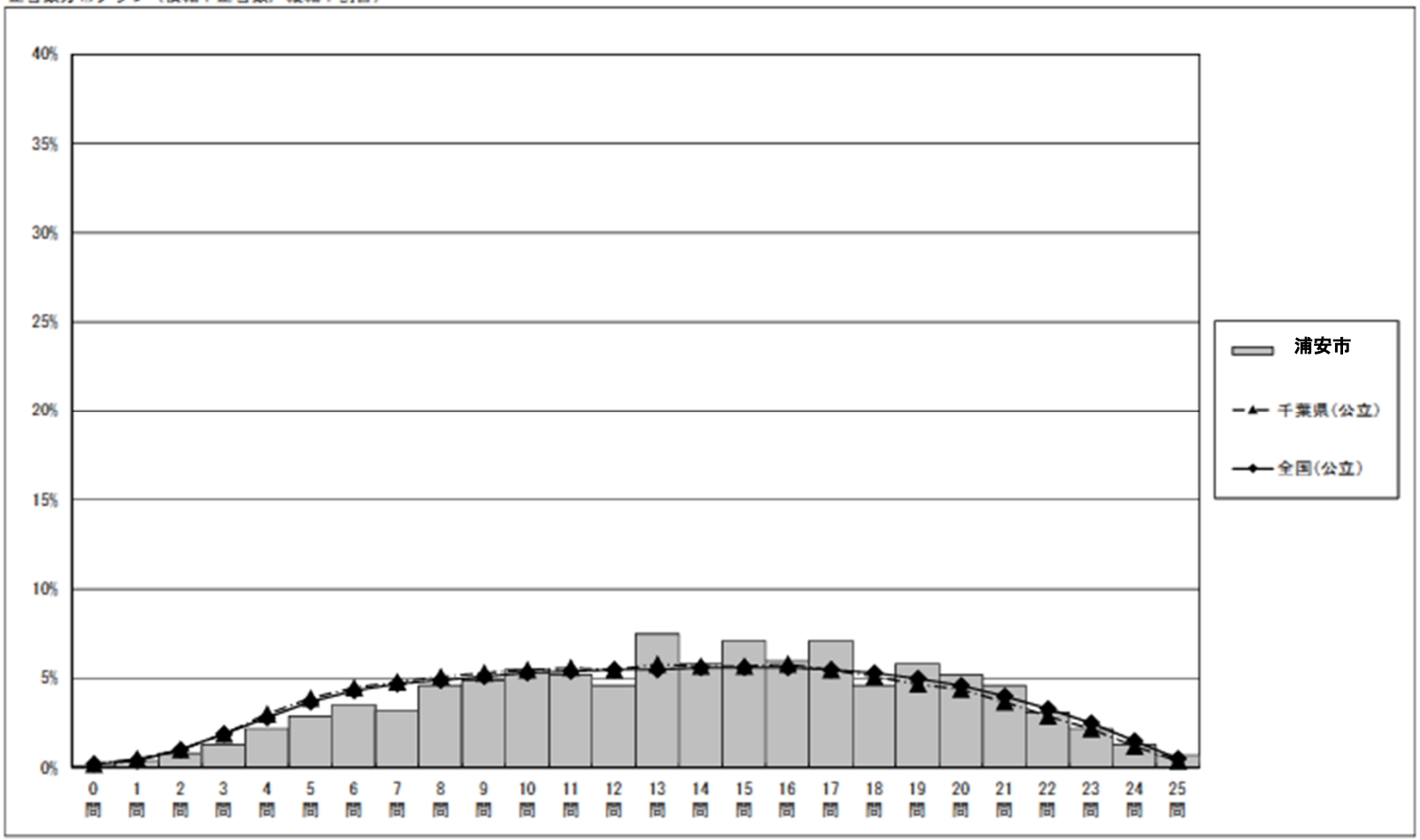
概要

浦安市全体の正答率は55.2%となっており、全国値を2.2ポイント上回っています。また、すべての区分・観点において全国値を上回っています。設問別にみると、全国値を下回っている設問が5問あり、その多くが、主として「活用」に関する問題となっています。日常生活の場面において、気体の種類による特性や露点などの基礎的・基本的な知識・技能を活用することを意識した指導が望まれます。

中学校3年　理科

平成27年度正答数度数分布

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



度数分布について

浦安市の理科の正答数度数分布は、全国・千葉県と比べ、正答数が13～21問（正答率約50%～80%）の生徒の割合が多いことがわかります。
ただし、22～25問（正答率約90%以上）の生徒の割合は、全国や県とほぼ同じ状況です。

中学3年　理科

＜課題が見られる点＞

知識・技能を活用すること

調査問題において「知識・技能を活用すること（適用）」における正答率が、**全校平均値に比べて低く**なっています。

（問題例）　6（1）

音の波形から音が高くなった根拠を問う問題

図１

【結果】

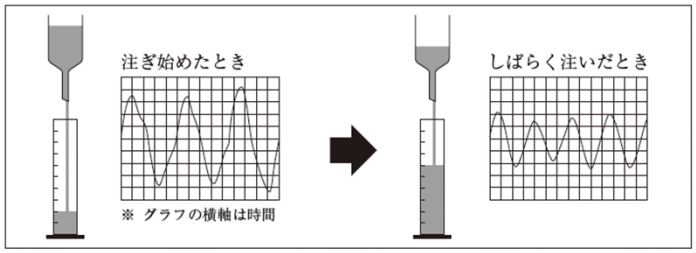


図２

【考察】

図２の２つの波形を比較すると，「注ぎ始めたとき」より「しばらく注いだとき」の方が，［ W ］なっているので，音の高さは高くなったと考えられる。

（1）【考察】の［ W ］に当てはまる正しいものを，下のアからエまでの中から１つ選びなさい。

ア　振動数が多く　　イ　振動数が少なく
ウ　振幅が大きく　　エ　振幅が小さく

正答率　36.3%（浦安市）
40.1%（全国）

＜指導改善例＞

【日常の取組】

○学習した知識・技能に関連した自然の事物・現象や科学技術などについて、考えたり説明したりする活動

・まず個人で考えさせた後に、グループで互いの考えを共有させる。

・説明させる際には、根拠を示し、事実と考えを区別して表現させる。

○日常生活や社会の特定の場面における理科の知識の活用

例）楽器やワイングラスなど身近なものを使って出す音を予想させる学習

○指導資料の活用

・「ちばのやる気」学習ガイド（千葉県教育委員会）の活用

例）ステップチェック「音の性質」目標⑤

・「全国学力・学習状況調査報告書」（国立教育政策研究所）の活用

例）理科で学習した知識を活用する学習

【他教科との関連】

○数学科・社会科などで

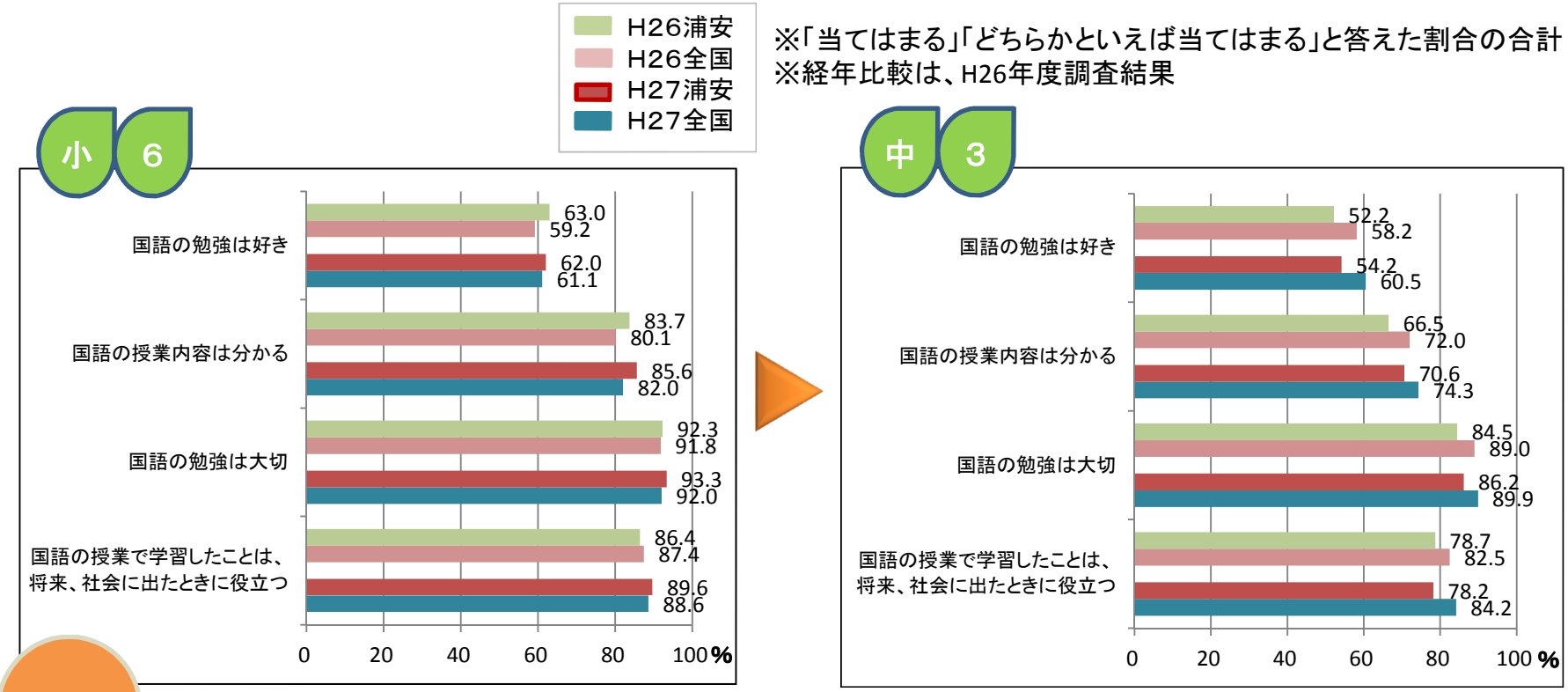
・資料や調査結果などを根拠に自分の意見を述べる活動

質問紙調査

平成27年度　児童・生徒質問紙調査　結果

国語　教科の関心・意欲に関わる設問

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合の合計
※経年比較は、H26年度調査結果



概要

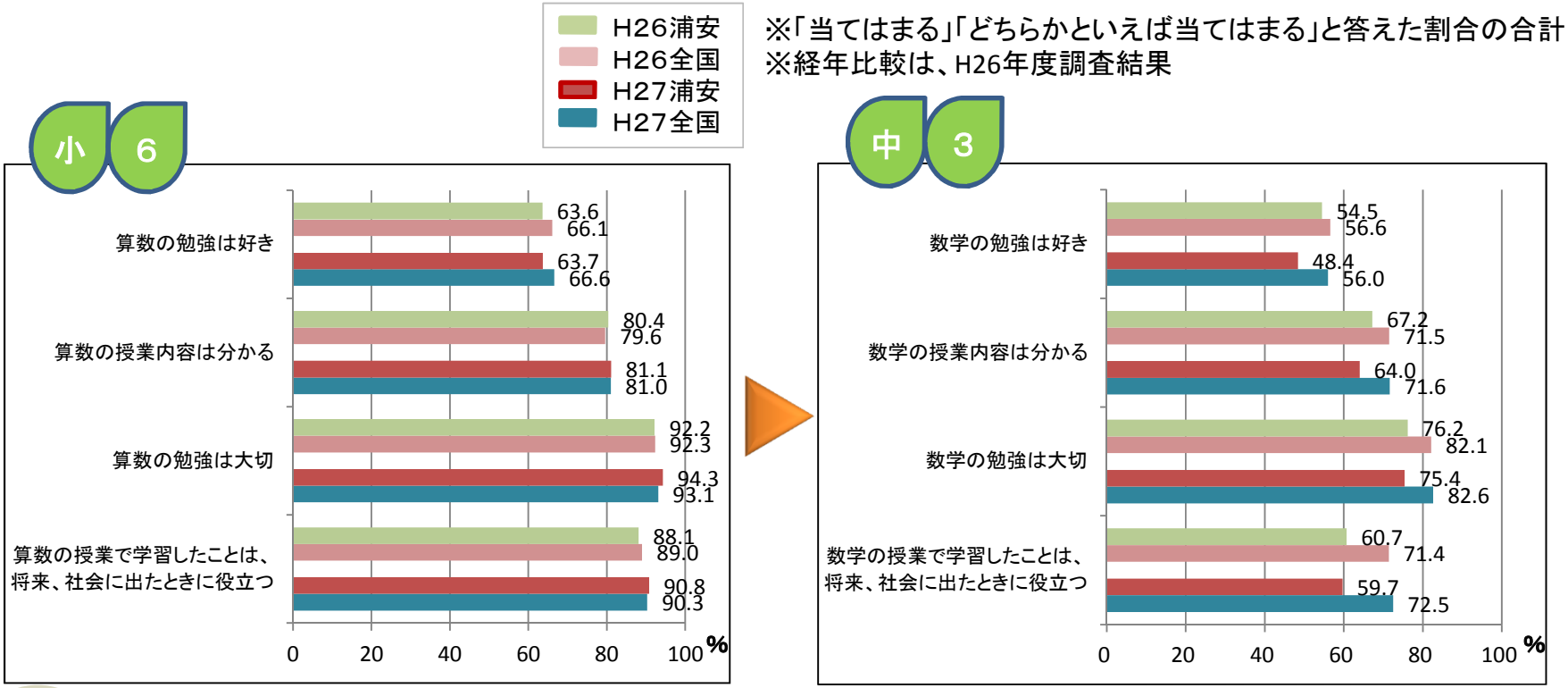
「国語の勉強は好き」「国語の授業内容は分かる」「国語の勉強は大切」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と答えた小6の割合は全国平均を上回っています。昨年度と比較すると、どの項目も同程度となっています。

中3では、どの項目も全国平均を下回っています。「国語の勉強は好き」「国語の授業内容は分かる」「国語の勉強は大切」と答えた割合は昨年度と比較すると、どの項目も同程度またはやや増加しています。

平成27年度　児童・生徒質問紙調査　結果

算数・数学　教科の関心・意欲に関わる設問

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合の合計
※経年比較は、H26年度調査結果



概要

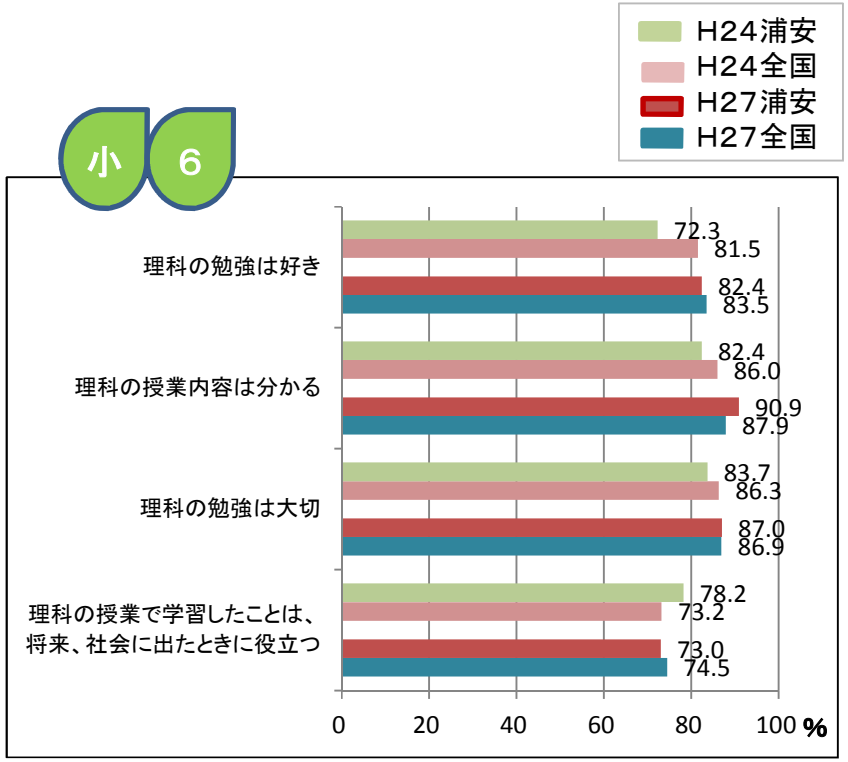
「算数がわかる」「算数の勉強は大切」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と答えた小6の割合は、全国平均と同程度で、昨年度と比較すると、やや増加傾向にあります。

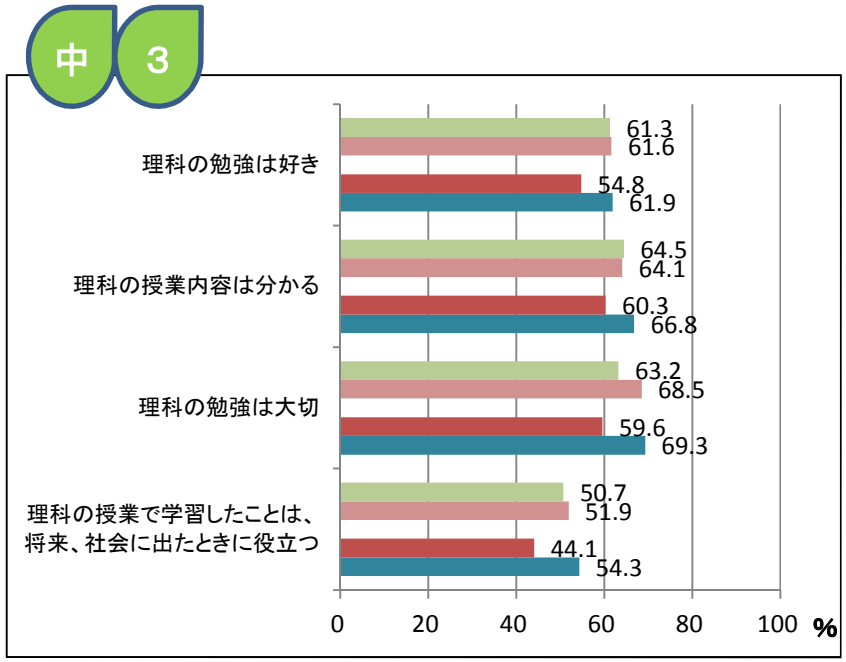
中3では、すべての項目で全国平均を下回っています。特に、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と答えた割合は、全国平均を10ポイント以上下回っており、昨年度と比較しても、すべて減少傾向にあります。

平成27年度　児童・生徒質問紙調査　結果

理科　教科の関心・意欲に関わる設問

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合の合計
※経年比較は、H24年度調査結果（ただし、抽出調査）





概要

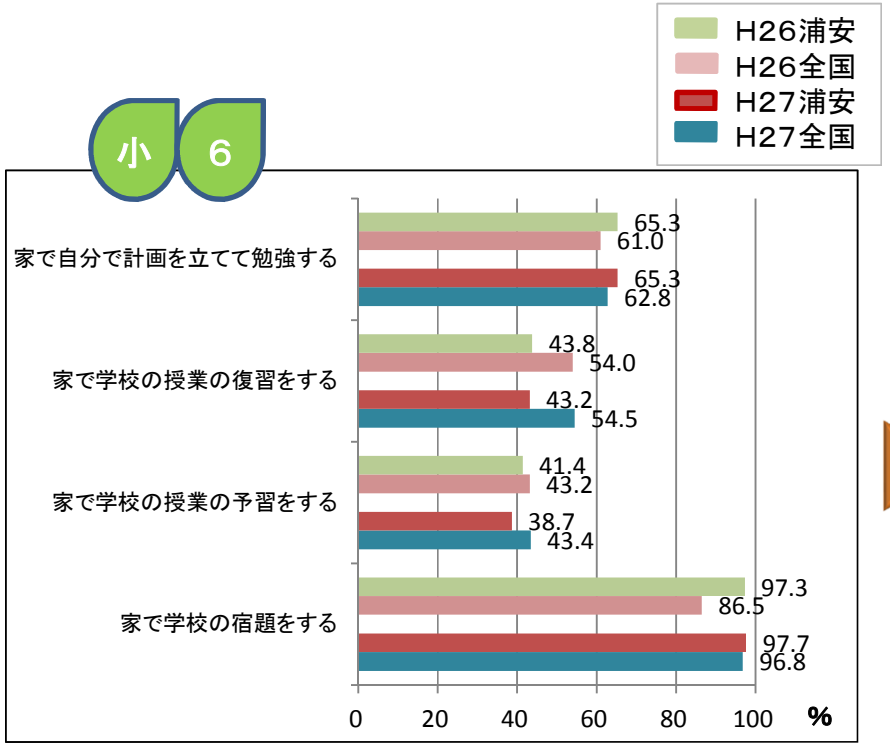
小6では、H24年度と比較すると「理科の勉強は好き」が大きく上回っています。また、「理科の授業内容は分かる」「理科の勉強は大切」と答えた割合が増加していますが、「理科の授業で学習したことは、将来、社会にでたときに役立つ」と答えた割合は、減少しています。全国平均と比較すると、「理科の授業内容は分かる」以外の項目は、ほぼ同程度か下回っています。

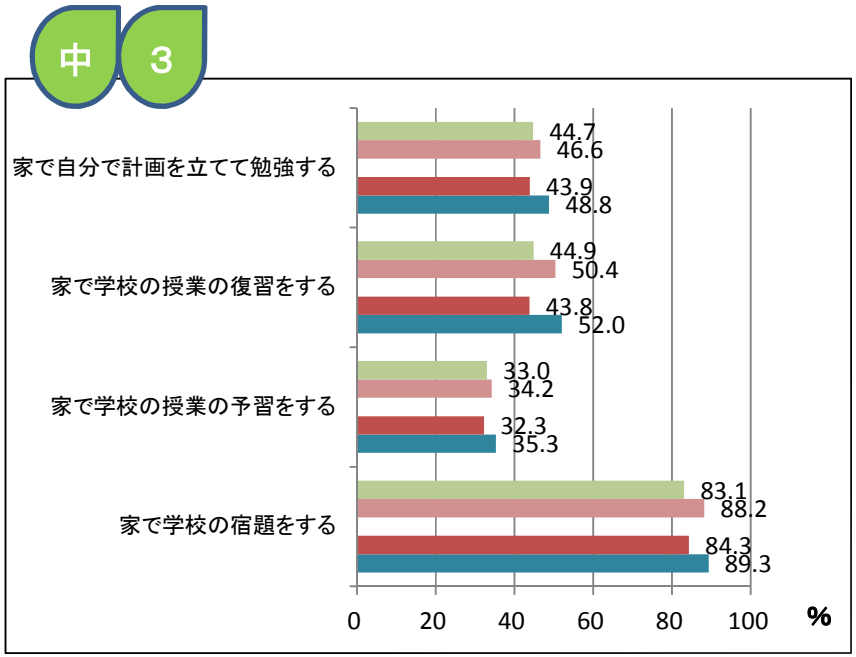
中3では、すべての項目で全国平均を下回っています。H24年度と比較してもすべての項目で下回り、全体的に減少傾向にあります。

平成27年度　児童・生徒質問紙調査　結果

家庭での学習に関わる設問

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合の合計
※経年比較は、H26年度調査結果





概要

「家で学校の授業の予習をする」「家で学校の授業の復習をする」と答えた小6の割合は、全国平均を下回っていますが、「家で計画を立てて勉強する」「家で学校の宿題をする」と答えた割合は全国平均を上回っています。「家で学校の復習をする」と答えた割合は、昨年度に続き10ポイント以上下回っています。

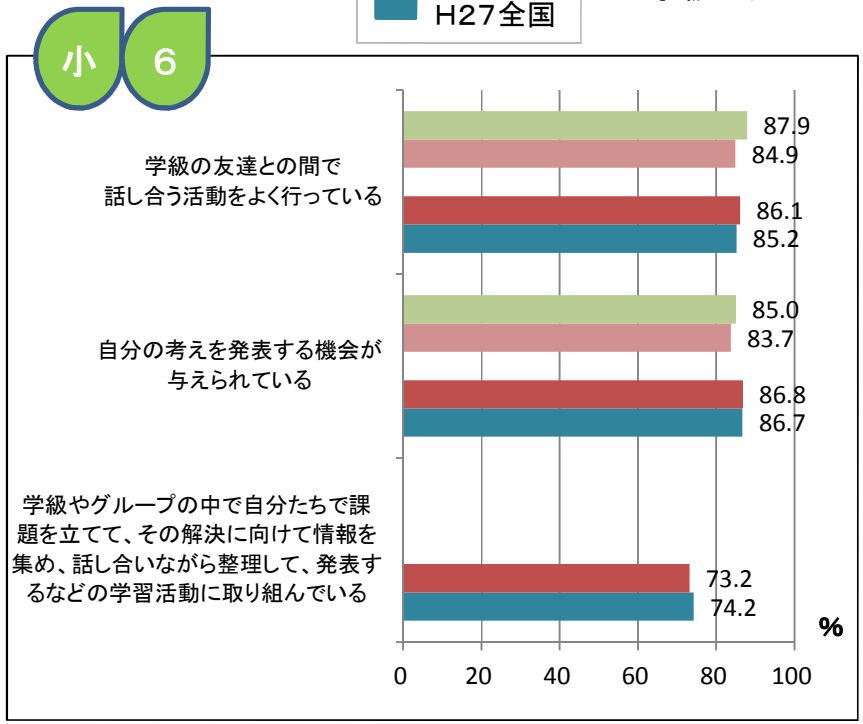
中3では、すべての項目で全国平均を下回っており、特に、「家で学校の授業の復習をする」「家で学校の宿題をする」と答えた割合は全国平均を5ポイント以上下回っています。昨年度と比較するとどの項目も大きな変化はありません。

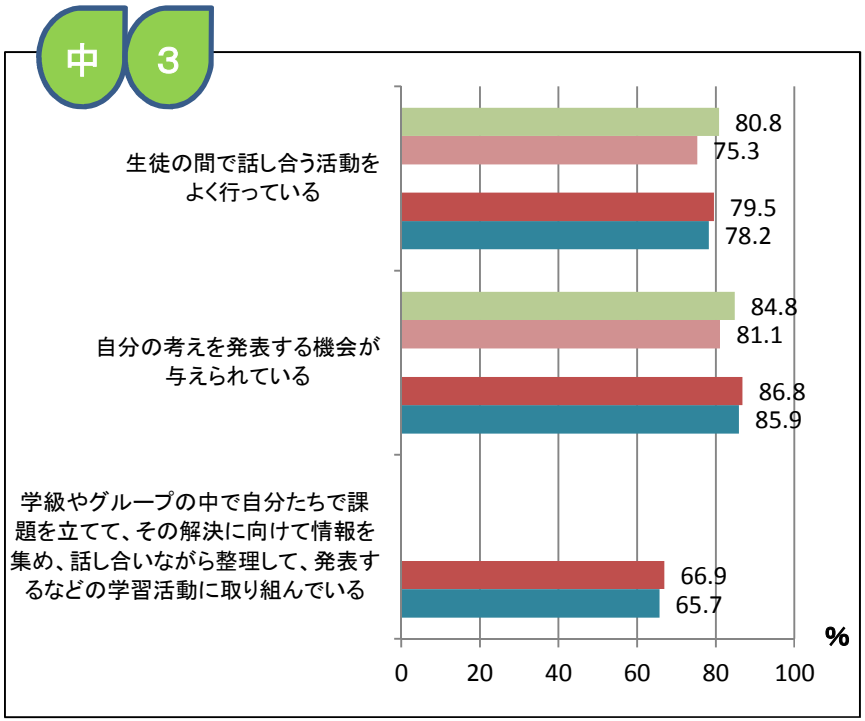
平成27年度　児童・生徒質問紙調査　結果

学習活動に関わる設問

H26浦安
H26全国
H27浦安
H27全国

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合の合計
※経年比較は、H26年度調査結果
※「学級やグループ～学習活動に取り組んでいる」は今年度初めて出された設問です。





概要

小6では、すべての項目について、全国平均と同程度です。昨年度と比較しても大きな変化はありません。
中3では、すべての項目について、全国平均を上回っています。昨年度と比較すると、今年度新たに出された設問についても全国平均と同程度でした。

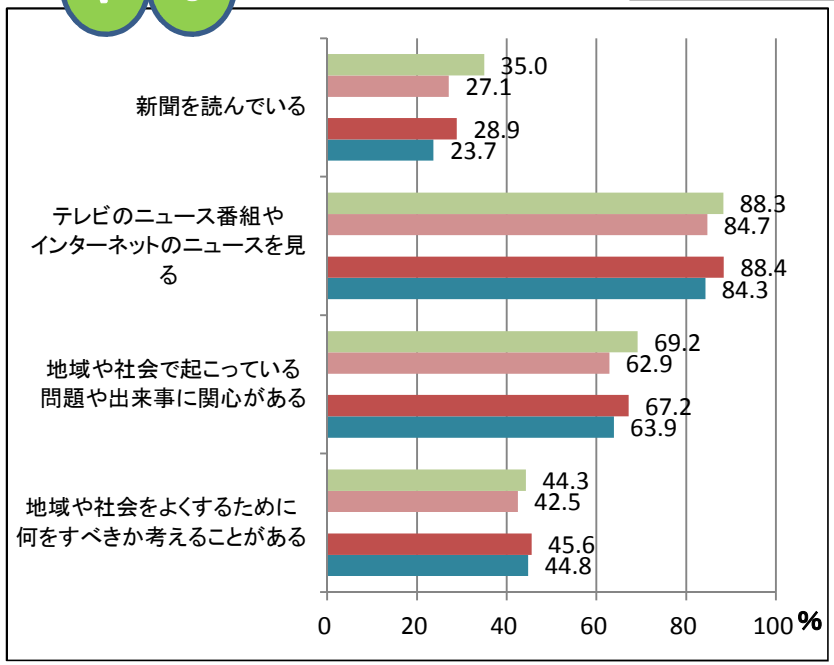
平成27年度　児童・生徒質問紙調査　結果

社会への関心に関わる設問

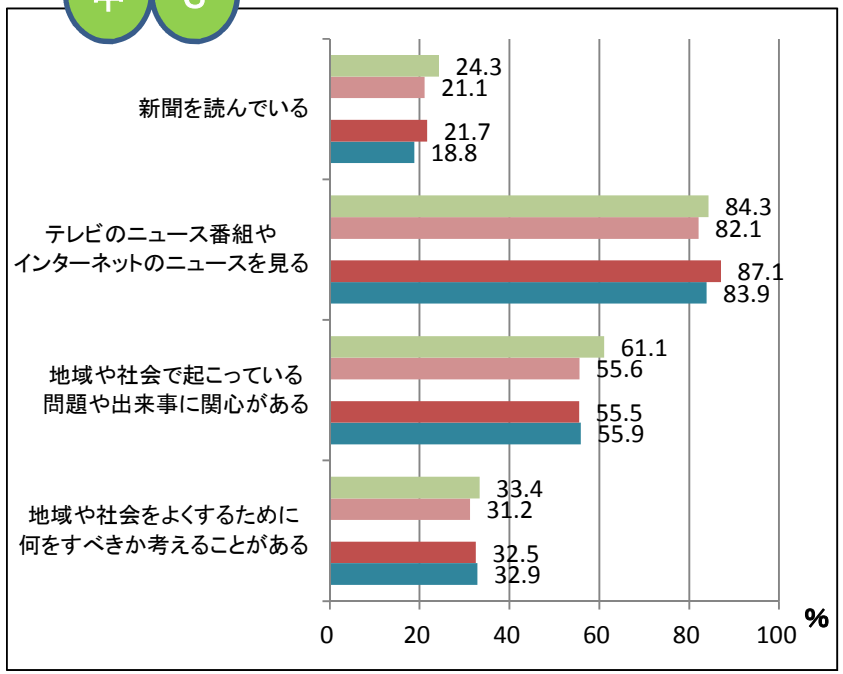
H26浦安
H26全国
H27浦安
H27全国

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合の合計
※経年比較は、H26年度調査結果

小6



中3



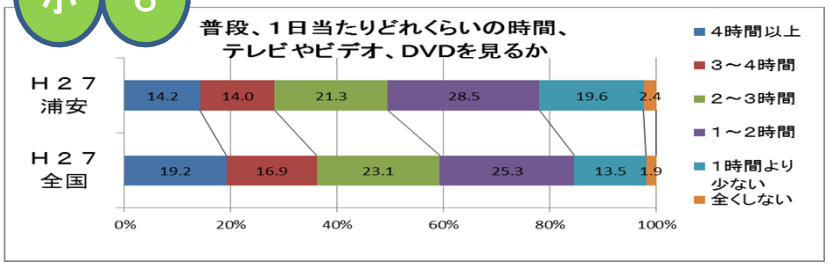
概要

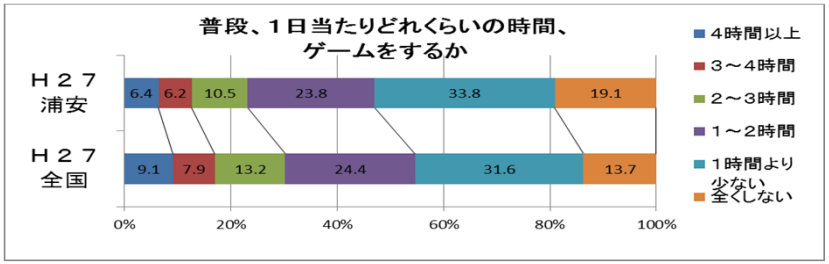
小6では、すべての項目で全国平均を上回っています。中3では、全国平均とほぼ同程度か上回る結果となりました。昨年度と比較すると、小中ともに「新聞を読んでいる」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と答えた割合が下回りました。

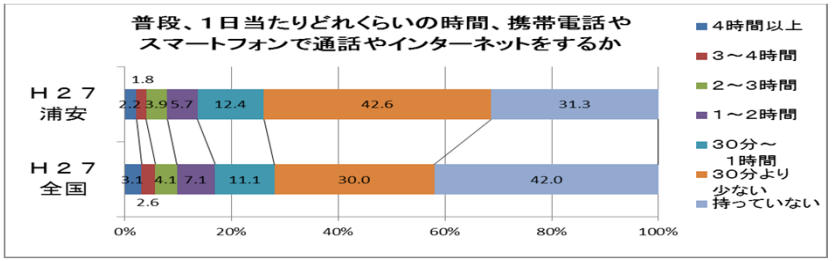
平成27年度　児童・生徒質問紙調査　結果

メディアに関わる設問

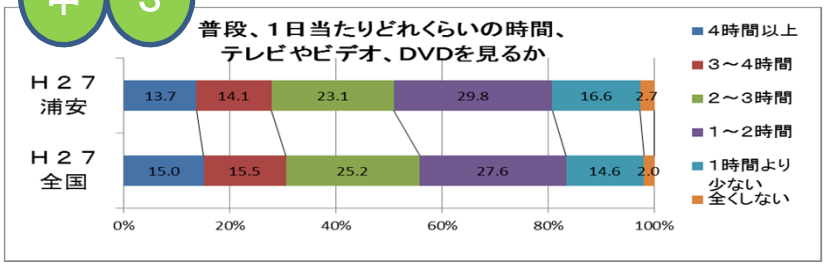
小6

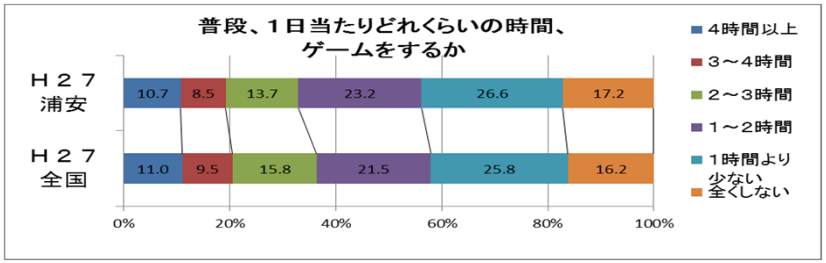


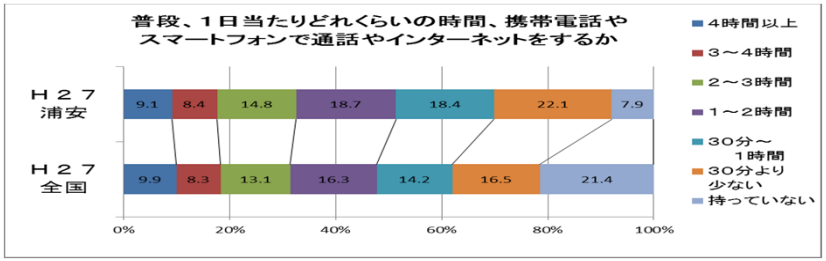




中3







概要

中3の「普段、１日当たりにするゲームの時間」は、各時間帯とも全国平均とほぼ同程度です。小6の「普段、１日当たりにするゲームの時間」は、１時間以上の割合が全国平均を下回っています。また、小中ともに「普段、１日当たりにする携帯電話やスマートフォンの通話やインターネットの時間」は、30分以下の割合が高く、「持っていない」割合が低くなっています。

平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

全国学力・学習状況調査結果と質問紙調査結果とのクロス集計を行い、学力との相関が見られた代表的な項目を紹介します。

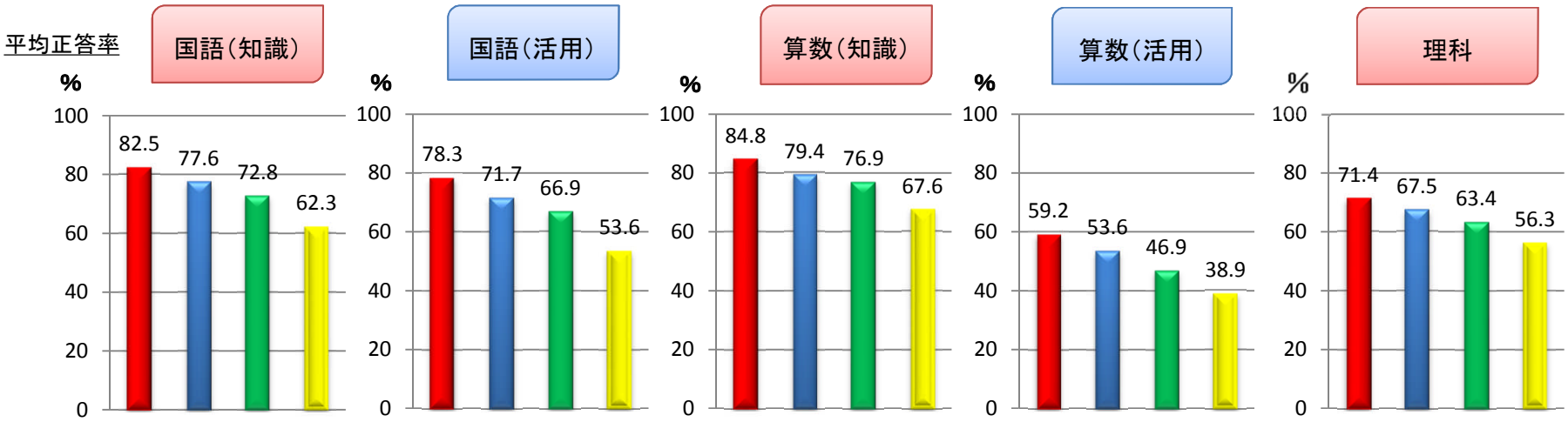
棒グラフは、浦安市の児童生徒が回答した選択肢別の平均正答率を表しています。

「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

小6

平均正答率



概要

家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒ほど正答率が高く、特に、国語と算数・数学の「活用」において顕著な傾向が見られます。計画を立てて勉強する習慣が、学習内容を「活用」する力に結びついていることが考えられます。

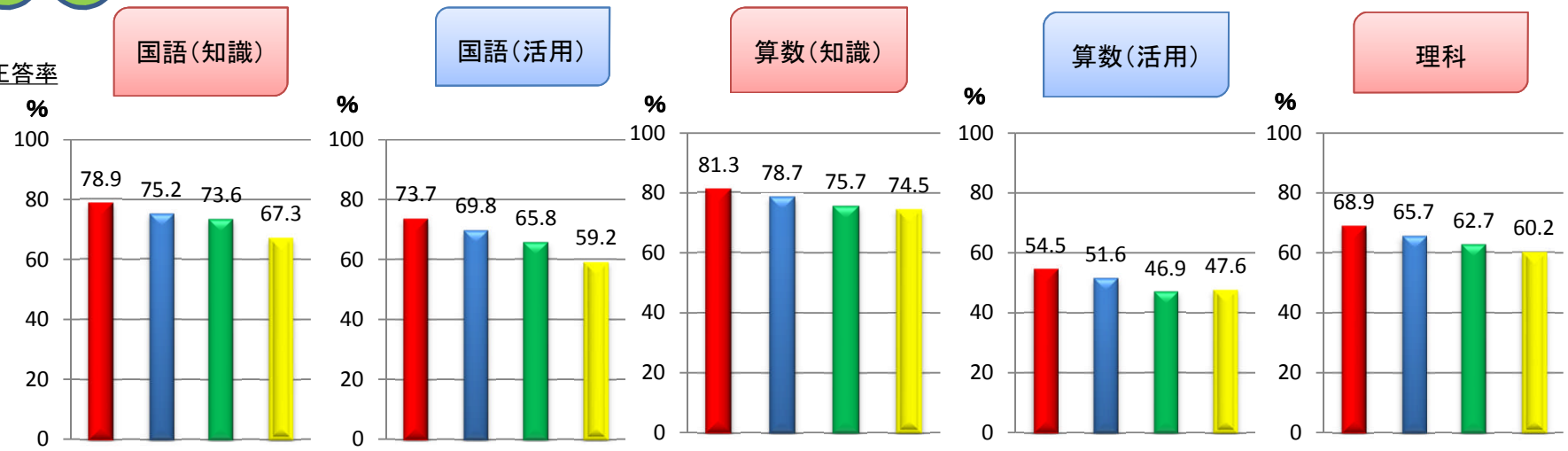
平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

「前学年までに受けた授業では，
友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う」

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

小 6

平均正答率



概要

友達との間で話し合う活動をよく行っていた児童生徒ほど正答率が高い傾向にあります。話し合い活動を充実させることで、学習内容が身に付く傾向にあると考えられます。

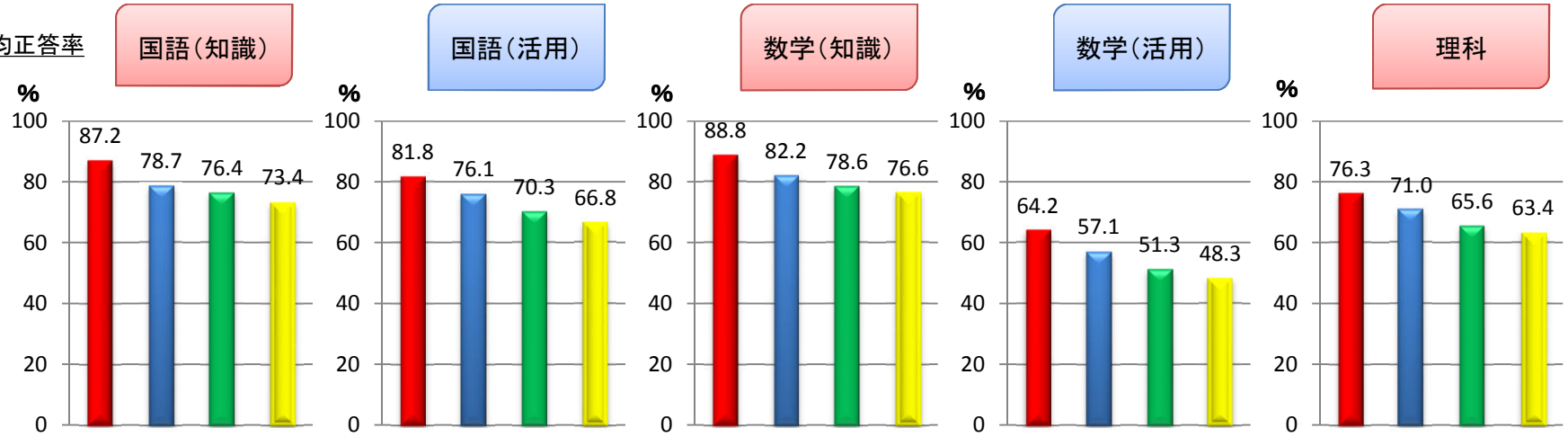
平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

「新聞を読んでいますか」

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

小 6

平均正答率



概要

新聞を読んでいる児童ほど正答率が高い傾向が見られます。活字を通してニュースに触れることで、様々な出来事を身近に感じることが大切だと考えられます。

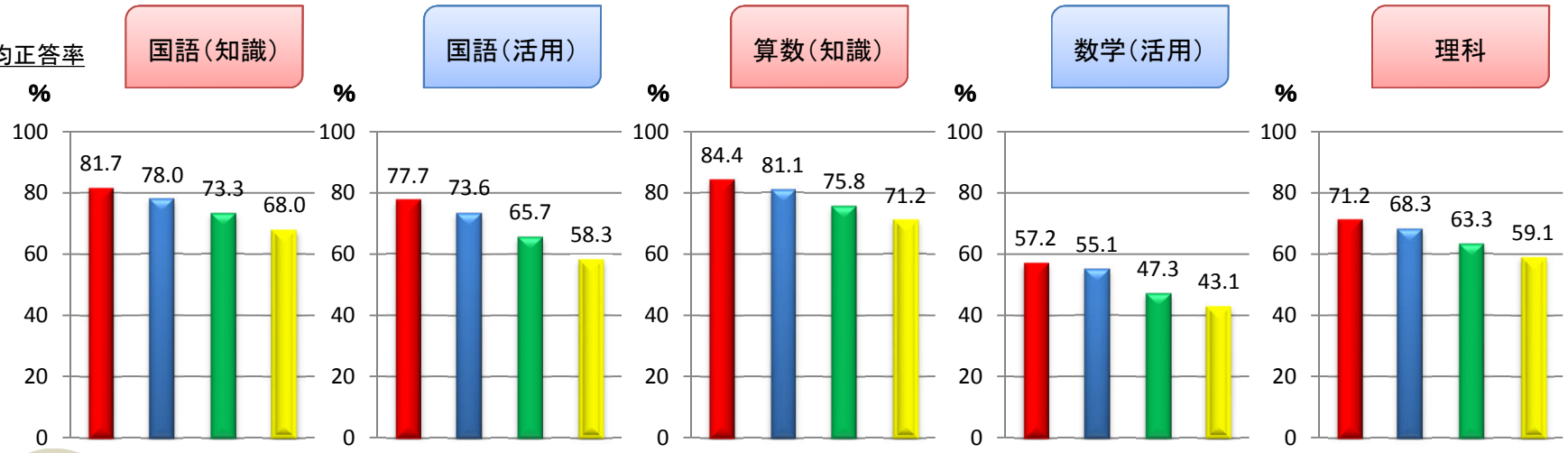
平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

「総合的な学習の時間では，
自分で課題を立てて情報を集め整理して，
調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

小 6

平均正答率



概要

総合的な学習の時間に、自分で課題を設定し情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童ほど正答率が高い傾向が見られます。総合的な学習の時間の学習課程の見直しや充実が必要と考えられます。

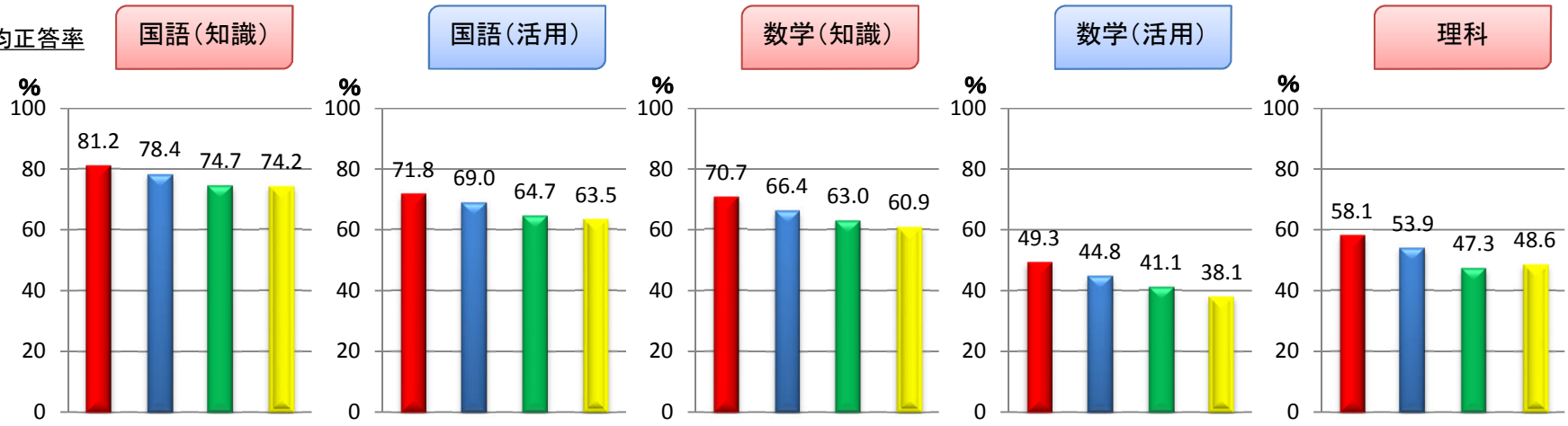
平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

「家で，学校の宿題をしている」

中 3

当てはまる
どちらかといえば当てはまる
どちらかといえば当てはまらない
当てはまらない

平均正答率



概要

家で学校の宿題をしている生徒ほど、正答率が高い傾向が見られます。地域の幼保小中連携教育の中で、家庭学習の進め方を段階的に身に付けさせることが大切です。

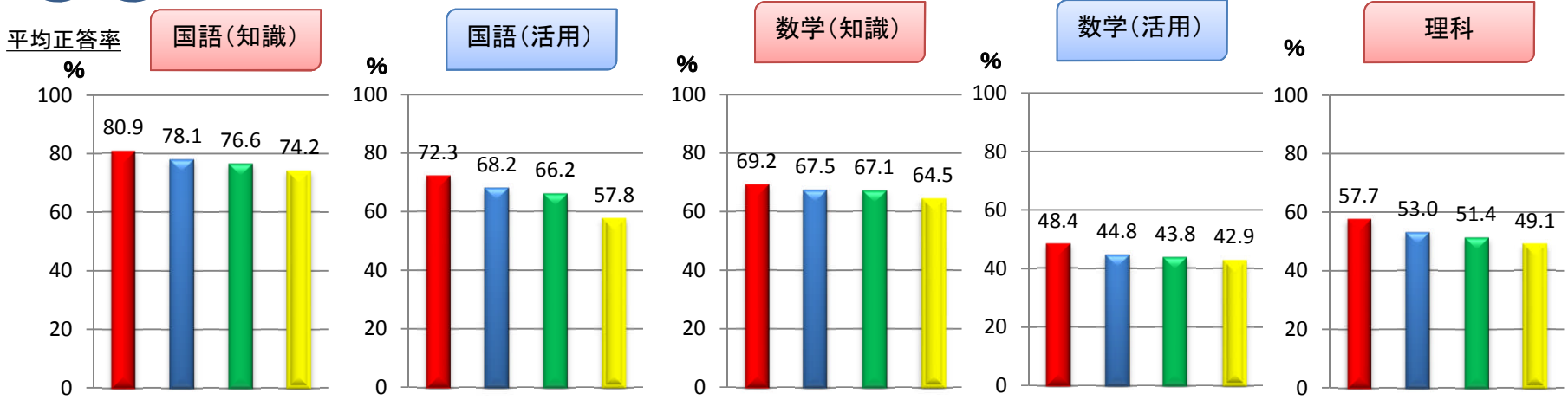
平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）」

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

中 3

平均正答率



概要

ニュースを見ている生徒ほど、正答率が高い傾向が見られます。地域や社会で起きている出来事に関心を持つことが、大切であると考えられます。

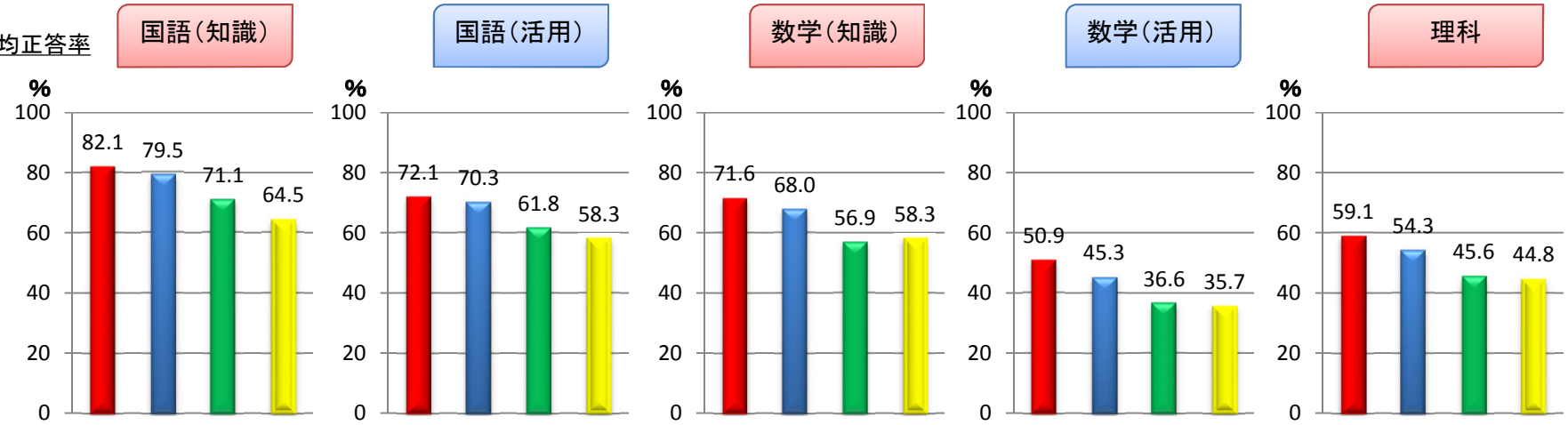
平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

「1，2年生のときに受けた授業では，
自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う」

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

中 3

平均正答率



概要

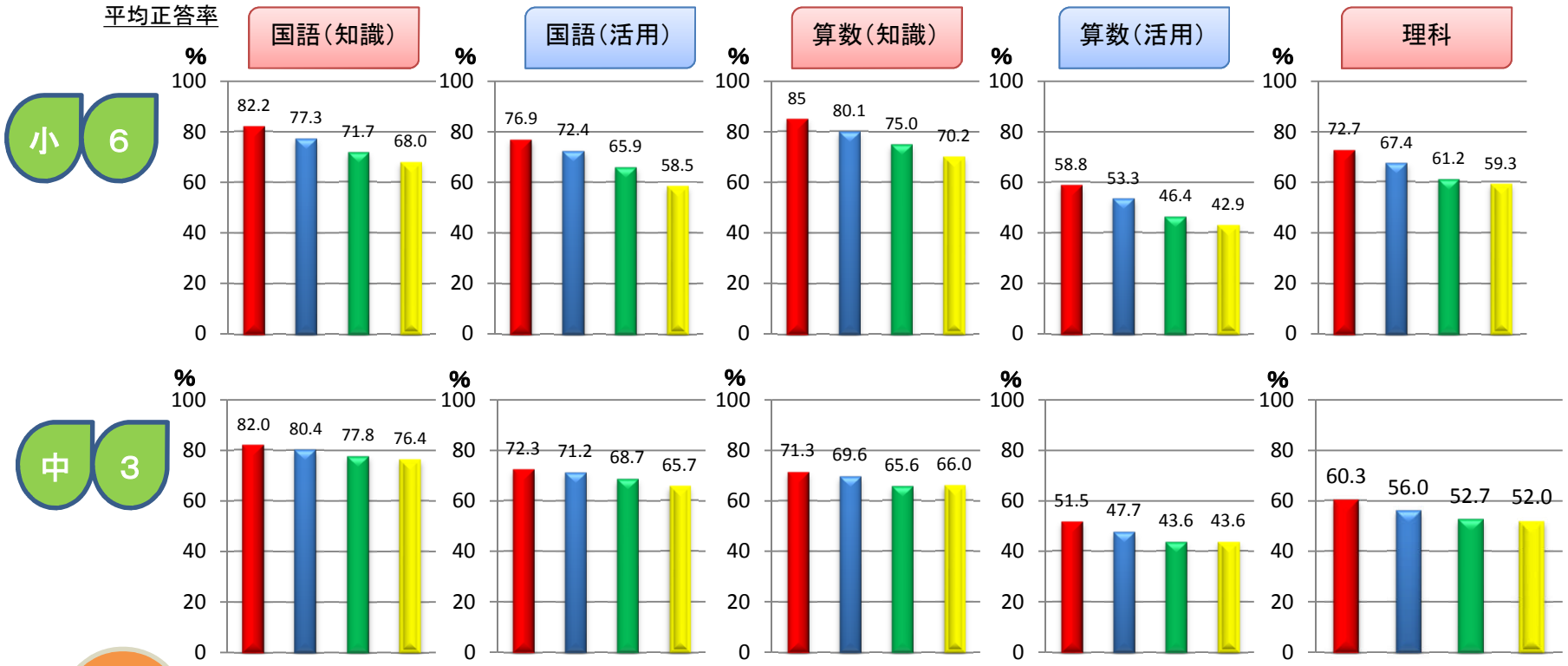
自分の考えを発表する機会が与えられた生徒ほど、正答率が高い傾向が見られます。話し合い活動の充実が関連していると考えられ、どの子も自分の考えを書いたり発表したりする場を設定することが大切です。

平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

平均正答率



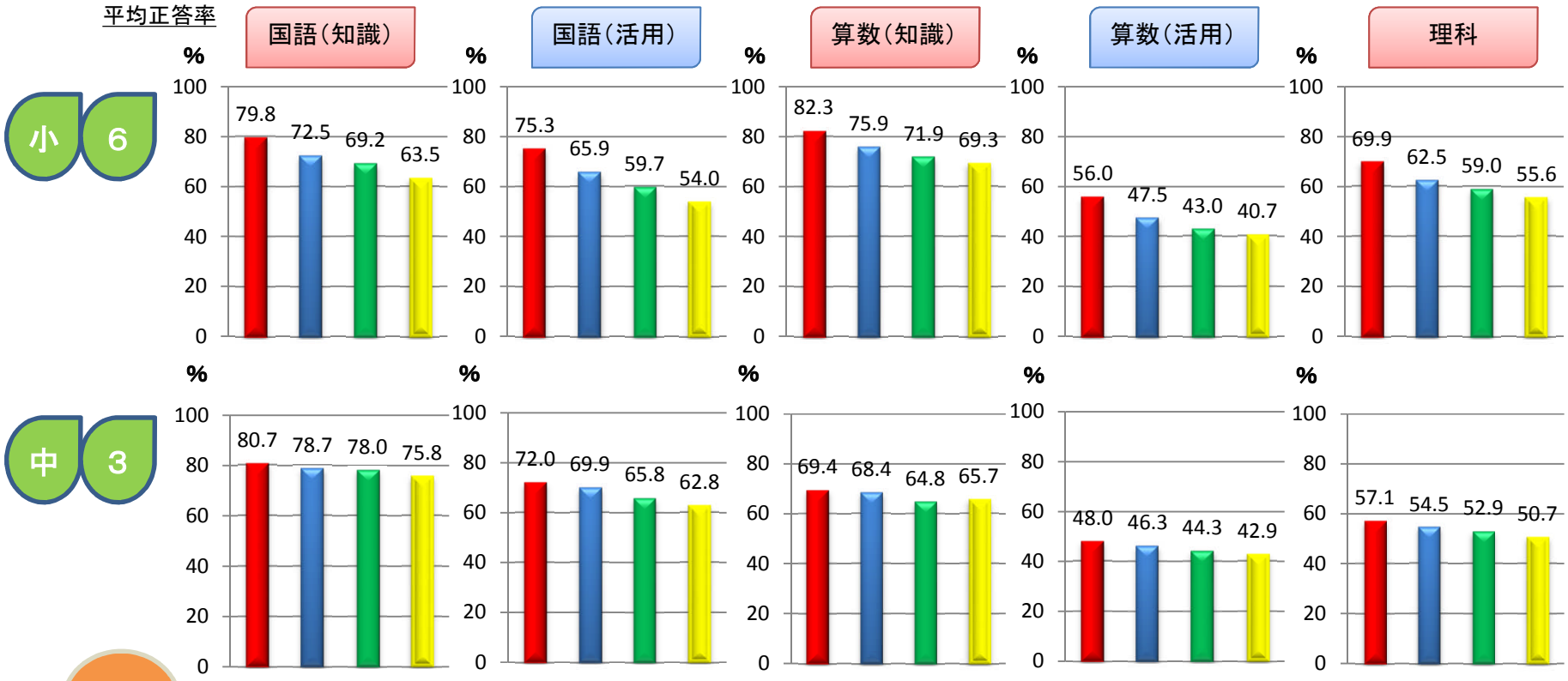
概要

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童・生徒ほど正答率が高い傾向が見られます。新聞やニュースに触れることにより、地域や社会での出来事を身近に感じる機会を増やしていくことが大切であると考えられます。

平成27年度　児童生徒質問紙調査と学力調査のクロス集計

授業で扱うノートには、目標（めあて・ねらい）と
まとめを書いていたと思いますか

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない



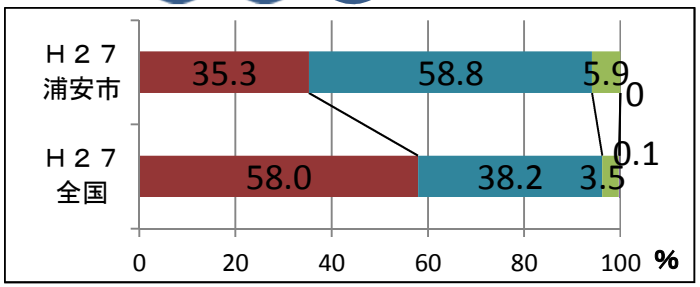
概要

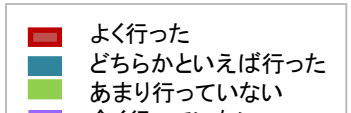
授業のはじめに、めあてやねらいを意識できている児童生徒ほど、正答率が高い傾向にあります。授業のはじめに目標をしっかり示し、それを意識した取組を行っていくことが大切だと考えられます。

平成27年度　学校質問紙調査　結果

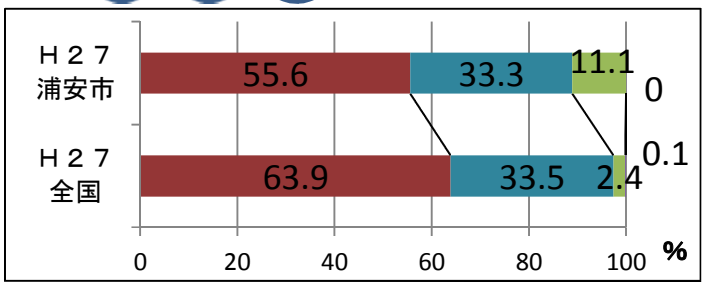
学習規律（私語をしない、チャイムを守るなど）の維持を徹底した

小学校

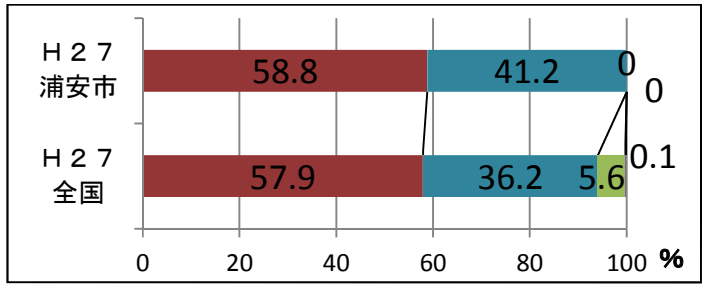


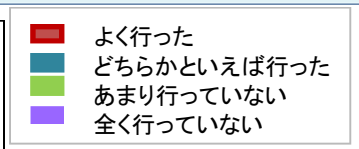


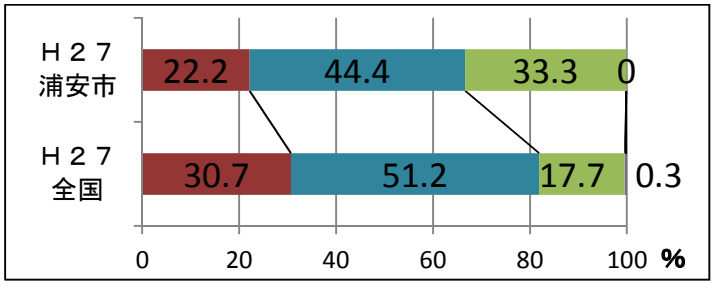
中学校



授業で扱うノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導を行った







概要

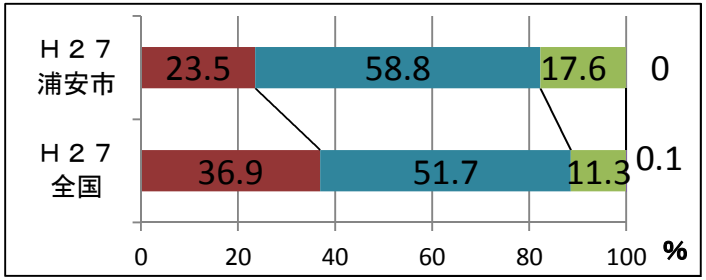
「学習規律の維持の徹底をよく行った」と答えた割合は、小中ともに全国平均を下回っています。小中学校とも、肯定的な割合（「よく行った」+「どちらかといえば行った」）を含めても全国平均を下回っています。

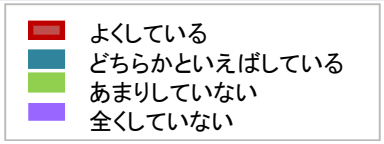
「授業で扱うノートに学習の目標とまとめを書くように指導をよく行った」と答えた割合は、小学校で全国平均を上回っています。また、小学校の肯定的な割合（「よく行った」+「どちらかといえば行った」）が100%となっています。

平成27年度　学校質問紙調査　結果

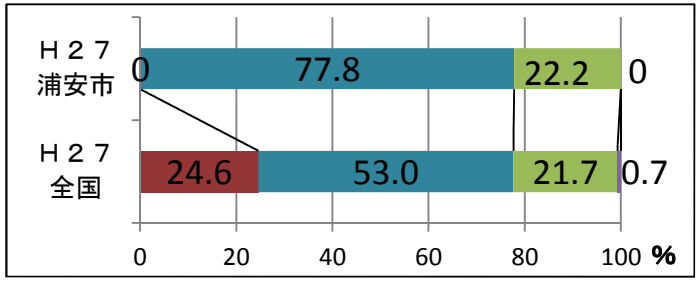
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり検討したりしている

小学校

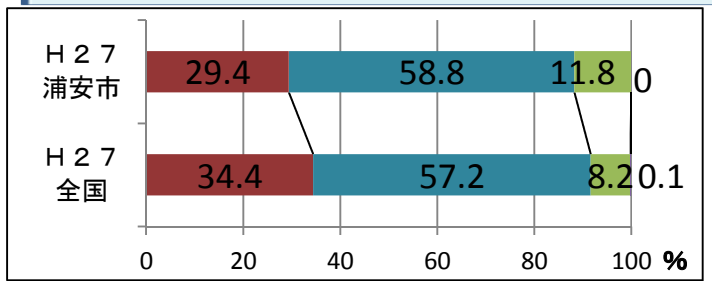


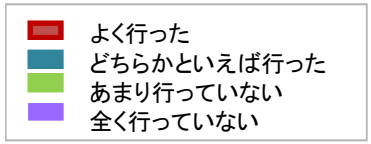


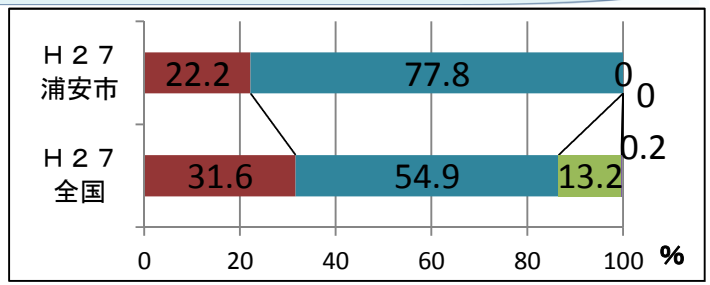
中学校



言語活動について、国語だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいる







概要

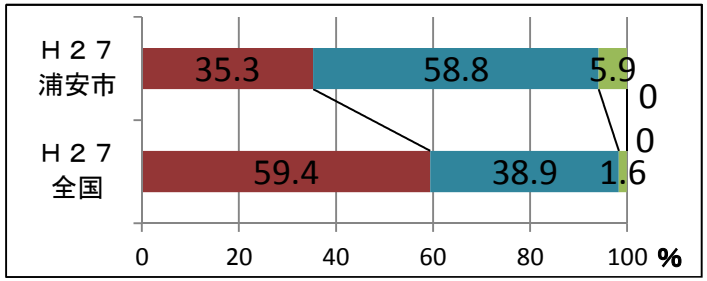
小学校では、言語活動について、全職員間で話し合ったり検討したりしている（「よく」+「どちらかといえば」）割合、様々な教科等を通じて学校全体で取り組んでいる（「よく」+「どちらかといえば」）割合が、どちらも全国平均を下回っています。

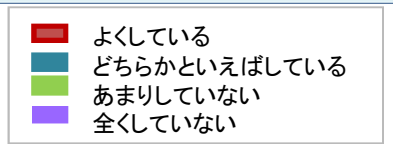
中学校では、言語活動について、様々な教科等を通じて学校全体で取り組んでいる（「よく」+「どちらかといえば」）割合は、100%になっています。

平成27年度　学校質問紙調査　結果

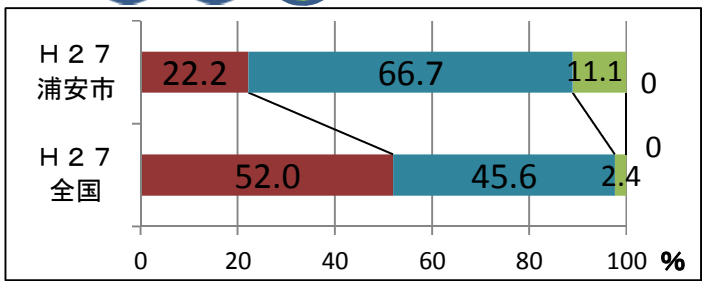
学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

小学校

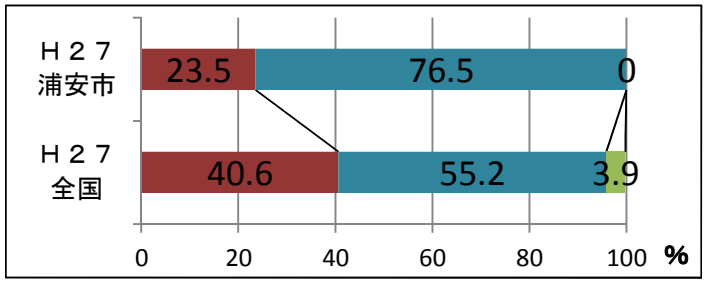


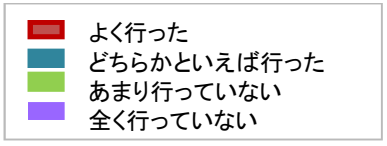


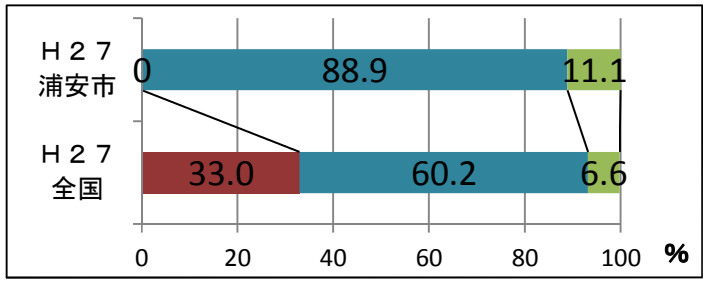
中学校



平成26年度全国学力･学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年･教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した







概要

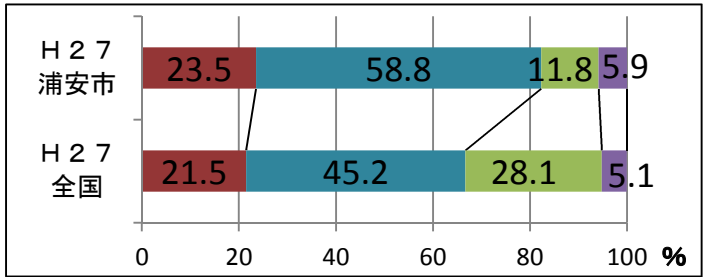
学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で「よく」共有していると答えた割合は全国を下回っています。また、「よく」+「どちらかといえば」していると答えた割合も、小中学校ともに全国を下回る結果となっています。

平成26年度全国学力･学習状況調査の自校の結果を、調査対象学年･教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために、「よく」活用したと答えた小学校の割合は、全国平均を下回っていますが、「よく」+「どちらかといえば」と答えた割合は100% となっています。一方、中学校では、「よくした」と答えた割合が0%となっています。

平成27年度　学校質問紙調査　結果

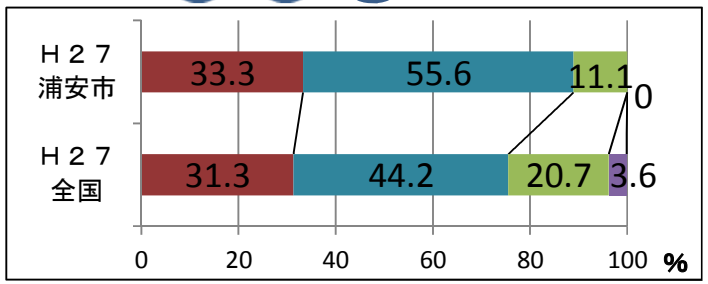
教科の指導内容や指導方法について近隣の小・中学校と連携を行っている

小学校

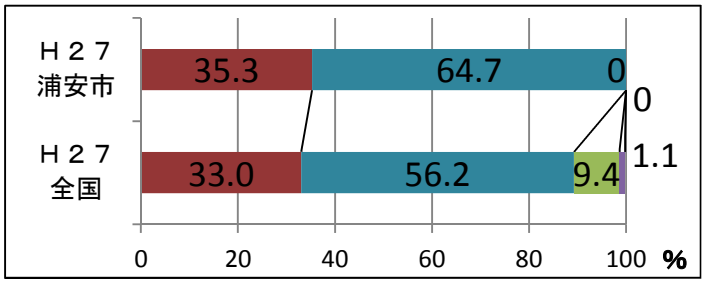


よく行っている
どちらかといえば行っている
あまり行っていない
全く行っていない

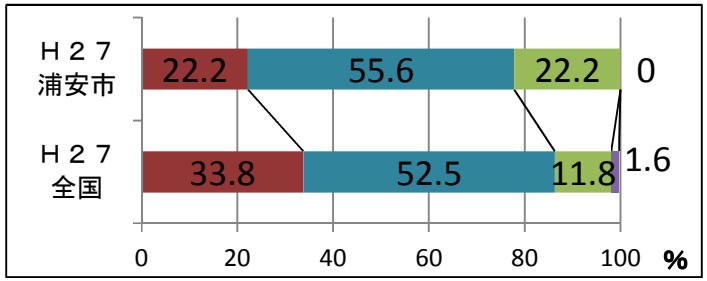
中学校



教員は特別支援教育について理解し、調査対象学年の児童・生徒に対する授業の中で、児童・生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行った



よく行った
どちらかといえば行った
あまり行っていない
全く行っていない



概要

「教科の指導内容や指導方法について近隣の小・中学校と連携をよく行っている＋どちらかといえば行っている」と答えた割合は、小中学校ともに全国平均を大きく上回っています。

「教員は特別支援教育について理解し、調査対象学年の児童・生徒に対する授業の中で、児童・生徒の特性に応じた指導上の工夫をよく行った」と答えた割合は、小学校では全国平均を上回っていますが、中学校では下回っています。

また、肯定的な割合（「よく」+「どちらかといえば」）は、小学校で100% となっています。